



公益社団法人

かながわ福祉サービス振興会

Kanagawa Welfare Service Association

8th かながわ福祉サービス大賞

コロナの先の福祉を語ろう

Kanagawa Welfare Service Award

第8回かながわ福祉サービス大賞



ーコロナの先の福祉を語ろうー

第8回かながわ福祉サービス大賞運営委員会

委員長 瀬戸 恒彦

令和2年度を迎え、「かながわ福祉サービス大賞」も第8回目の開催となります。最近は、「地域包括ケア」や「地域共生社会」などがキーワードとして語られるようになり、急速に進む少子高齢化のなかで、地域住民とともに地域福祉を創る動きが活発になってきました。

一方、令和2年4月には、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令されるなど、医療や介護現場では大変大きな影響が発生しました。自粛を求めた結果、観光業や飲食業をはじめ多くのサービス業に大きな影響が及んでいます。

こうした中で、私たちは、何ができるでしょうか。コロナを恐れて不安な毎日を送ると免疫力の低下や様々な病気の誘発につながります。こんな時だからこそ、楽しい時間を過ごしたり、外出して適度な運動をしたり、友達と交流することによって、免疫力を高め心と体の健康を保つ必要があるのです。ひとり暮らしの高齢者が家に閉じこもることによる虚弱化が懸念されます。

今、私たちは、新型コロナウイルスという大きな困難に直面しています。とりわけ、直接人と人が触れ合うことを前提とする介護の現場では、困難な課題が沢山ありました。コロナの実態や感染経路が明らかにされないまま、マスクの着用と手洗いの励行、トイレや手すり、あらゆる設備・備品の殺菌を余儀なくされました。介護現場では、一人の感染者も出さないという決意のもと、あらゆる対応してきたのです。こうした介護現場の苦労をもっと知って欲しいという声もあります。

こうした状況だからこそ、私たちは、第8回福祉サービス大賞を開催することを決意しました。現場で実践してきたアイデアを出し合っ、知恵を重ねることにより、この困難を乗り越えていきたいのです。誰もが経験したことのないコロナ禍の中での「実践事例」は大変貴重な情報です。これらを持ち寄って、コロナの先の福祉を語りませんか。多くの課題があったとしても、課題を解決した先に必ずや明るい未来が待っていると思います。

私たちは、介護や福祉の現場で働く皆さんを応援しています。一人で悩んでいないで、みんなと語り合っ、コロナに負けずに明るい気持ちで介護事業を継続しましょう。是非、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第8回かながわ福祉サービス大賞 応募一覧

事例 1	イチ児童デイサービス緑ヶ丘.....	1
事例 2	放課後等デイサービス スティームプラス.....	2
事例 3	株式会社ワン・ライフ リハビリテーション One 相生.....	4
事例 4	社会福祉法人 横浜博萌会 汲沢地域ケアプラザ デイサービス.....	5
事例 5	社会福祉法人 横浜博萌会 汲沢地域ケアプラザ.....	6
事例 6	屋上テラスみどりや.....	7
事例 7	社会福祉法人 小田原福祉会 特別養護老人ホーム潤生園.....	10
事例 8	社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会 横浜市新栄地域ケアプラザ.....	11
事例 9	社会福祉法人 秀峰会 グループホーム風の生活館.....	13
事例 10	株式会社アイム.....	14
事例 11	株式会社アイム.....	15
事例 12	善了寺デイサービス還る家とともに.....	16
事例 13	大栄管理株式会社デイサービスえいわん菊名.....	17
事例 14	横浜市多業種交流会 『浜 CHAN』.....	18
事例 15	社会福祉法人 横浜鶴声会 やまゆりホーム.....	20
事例 16	有限会社足柄リハビリテーションサービス共生型デイサービスセンター well.....	21
事例 17	有限会社足柄リハビリテーションサービス共生型デイサービスセンター well.....	23
事例 18	有限会社足柄リハビリテーションサービス共生型デイサービスセンター well.....	24
事例 19	児童発達支援事業・放課後等デイサービス トータスキッズ.....	25
事例 20	株式会社つながり 認知症対応型デイサービスひだまり.....	26
事例 21	社会福祉法人富士白苑 平塚富士白苑.....	27
事例 22	株式会社ツクイ.....	29
事例 23	株式会社 manaby 横浜長者町事業所.....	31
事例 24	アースサポート株式会社 アースサポート横浜.....	33
事例 25	株式会社ツクイ ツクイ横浜希望が丘.....	34
事例 26	株式会社ツクイ ツクイ横浜小菅ヶ谷.....	35
事例 27	株式会社ツクイ ツクイ・サンフォレスト横浜戸塚東.....	36
事例 28	社会福祉法人 中心会 えびな北高齢者施設.....	37
事例 29	社会福祉法人 中心会 えびな北高齢者施設.....	38

事例 30	社会福祉法人 中心会 えびな北高齢者施設	39
事例 31	デイサービス BALENA	40
事例 32	株式会社ツクイ ツクイ横浜中田	41
事例 33	足柄リハビリテーションサービス 通所介護 ふらっと	42
事例 34	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷藤沢ウェルフェアタウン	43
事例 35	株式会社 ARCE UP Life	44
事例 36	障がい理解啓発活動グループ Kokua (コクア)	45
事例 37	社会福祉法人 泉心会 高齢者総合支援センター泉心荘	48
事例 38	リカバリータイムズ駒岡	50
事例 39	グループホーム水車の里	52
事例 40	株式会社ツクイ ツクイ伊勢原高森グループホーム	54
事例 41	社会福祉法人 心の会 さくらの里	55
事例 42	株式会社マエカワケアサービス	56
事例 43	株式会社マエカワケアサービス	57
事例 44	株式会社マエカワケアサービス	58
事例 45	株式会社マエカワケアサービス	59
事例 46	株式会社ツクイ ツクイ三浦グループホーム	60
事例 47	株式会社ツクイ ツクイ横須賀光風台グループホーム	61
事例 48	社会福祉法人 富士白苑大磯コーポ	62
事例 49	社会福祉法人 馬島福祉会 恒春園地域包括支援センター	63
事例 50	株式会社アスリートアイスタッフケアステーション大師	64
事例 51	社会福祉法人 敬愛 けいあいの郷 緑園	66
事例 52	特定非営利活動法人 UDE JAPAN	68
事例 53	一般社団法人愛楽園 あい訪問看護・リハビリステーション	69
事例 54	特定非営利活動法人「道」 就労継続支援B型事業所「道工房」	71
事例 55	社会福祉法人 ともかわさき 相談交流ひらま	73
事例 56	一般社団法人コ・クリエーション 地域まるごとケアステーション川崎	74
事例 57	株式会社クラ・ゼミ こどもサポート教室「きらり」武蔵新城校	76
事例 58	株式会社マエカワケアサービス リハビリデイセンター悠 ハッピーマウス	77

第8回かながわ福祉サービス大賞

—コロナの先の福祉を語ろう—

日時 2020年12月3日(木) 15:00～17:00

会場 ロイヤルホールヨコハマ
(横浜市中区山下町90番地)

プログラム

15:00 開会、LIVE配信開始

15:10 「事例インタビュー」 11事例

- ・事例36 障がい理解啓発活動グループ kokua(コクア)
- ・事例32 株式会社ツクイ ツクイ横浜中田
- ・事例28、29 社会福祉法人中心会 えびな北高齢者施設
- ・事例3 株式会社ワン・ライフ リハビリテーション One 相生
- ・事例34 社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷藤沢ウェルフェアタウン
- ・事例16、17、18 足柄リハビリテーションサービス 共生型デイサービスセンター well
- ・事例8 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会 横浜市新栄地域ケアプラザ
- ・事例22 株式会社ツクイ

「コロナの先の福祉について～1分スピーチ～」

- ・27事業所

16:30 イベント終了、LIVE配信終了

司会者のご紹介



光邦さん

FMヨコハマ「ちょうどいいラジオ」を軸に、TV番組のMC・ナレーター・TVCFほか様々な舞台公演にも出演しマルチな才能を発揮。横浜F・マリノスのスタジアムDJ、バレーボール日本代表の国際大会のマッチ・ナビゲーターなど、スポーツの現場でも持ち前の男気と熱いハートで活躍。趣味は料理・釣り・スノーボードと、自然を愛する男。
「みんな！マイ箸持とうぜっ！！」



中村 優子さん

作家エージェントおよび著者インタビューアとして活動。
YouTubeチャンネル「本Tube」を公開中。
双子の母でもある本好きアナウンサー中村優子が、文芸・ビジネス・実用・教育・スピリチュアルとジャンルを問わずインタビューしています。

運営委員のご紹介



かながわ福祉サービス振興会 理事長

瀬戸恒彦 Tsunehiko Seto

誰もが経験したことのないコロナ禍の中での「実践事例」は大変貴重な情報です。これらを持ち寄って、コロナの先の福祉を語りませんか。多くの課題があったとしても、課題を解決した先に必ずや明るい未来が待っていると思います

私たちは、介護や福祉の現場で働く皆さんを応援しています。一人で悩んでいないで、みんなと語り合って、コロナに負けずに明るい気持ちで介護事業を継続しましょう。



慶應義塾大学 総合政策学部 名誉教授

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 副理事長

深谷 昌弘 Masahiro Fukaya

皆さんのコラボレーションとコミュニケーションが新しい福祉の可能性を切り開きます。初回から大会を見続けている者の率直な感想です。

福祉は現場の皆さんと周囲の市民の方々との連携で地域生活に定着してきました。新しい社会の構築のなかこれからますますそうなるようになっていくことでしょうか。今年はどんな発展が見えてくるのでしょうか。楽しみにしています。



一般社団法人鴻鵠会 代表理事

新横浜在宅クリニック 院長（医学博士）

城谷 典保 Noriyasu Shirota

COVID-19 が全世界に広がっており、いまだ収束の兆しが見えないなか各事業所では大変ご苦労されて対応策を考えておられることと存じます。多くの国民から医療・介護・福祉にたずさわる皆様に感謝や拍手が数多く寄せられております。

このような国民の期待に答えるためにも、それぞれの職場の貴重な経験を仲間の方々と共有することで、感染リスクを減少させましょう。

福祉分野の多くの皆様の素晴らしい発表を期待しております。



株式会社ツクイ取締役

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 常任理事

小林 久美子 Kumiko Kobayashi

全世界を襲ったコロナ禍、情報が飛び交い何が正解か判断がつかない中、常に自分のこと以上にひとり一人に寄り添い、考えながら対応している介護現場の方々には頭が下がります。

最近の異常気象も含め、今後も何が起こるかわからない時だからこそ、各地・各事業所・施設で工夫してきた内容を共有し、介護業界のパワーを示すことも必要な時期と考えます。

医療の方々同様に、生活を支える介護のやりがいと素晴らしさを、皆で語り合ひましょう！



神奈川工科大学 地域連携・貢献センター長

小川 喜道 Yoshimichi Ogawa

コロナ禍のもと、各事業所ではさまざまな配慮、そして対策を講じながら、利用されている高齢者、障害者、ご家族のサポートに当たってこられたことと思います。支援者自身の感染の危険も抱えながらのご苦労もおありのことでしょう。ぜひ、皆さまのご経験を県内関係者と共有していきませんか。まだまだ続くと思われるコロナ感染リスクの中で、福祉分野におけるコロナ対策のあり方を皆で考えていきましょう。



神奈川新聞社 前顧問

神奈川新聞厚生文化事業団前理事長

林 義亮 Yoshiaki Hayashi

年初から世界に広がり、いまだ終息の気配がうかがえないコロナ禍。影響は暮らしの隅々に及び、社会のありようや人々の生き方も左右しかねない事態となっています。

深刻な状況に陥っている業態の一つが福祉や介護の現場ではないでしょうか。何より信頼と思いやりで成り立っている場だからです。

携わっている方々は日々、創意と熱意をもって日々の仕事に取り組んでおいでのはずですが、そうした日常をぜひ教えてください。



神奈川県 福祉子どもみらい局 福祉部長

水町 友治 Tomoharu Mizumachi

C 福祉現場の皆様は、コロナ感染防止に細心の注意を払いながら、日々業務を行っていらっしゃるものと存じます。

県では、現場に必要なマスクなどの衛生用品を確保しお届けするなど、支援しています。

「第8回かながわ福祉サービス大賞」が、感染防止に関する新たな取り組みや課題の共有などを通して、支援の充実につながる機会になることを期待しています。

事例 1 イーチ児童デイサービス緑ヶ丘

佐々木 賢人 様

神奈川県座間市緑ヶ丘



うちの施設は放課後等デイサービスで主に障がい児が通所しています。

うちの事業所では普段の消毒はファミテクトでしたが、コロナに関してはアルコール消毒が有効ということだったので手洗い後アルコール消毒に変えたら子供たちから臭いと不評でした。

しかし匂いにも慣れていかないといけないので、普段の掃除やオモチャの消毒もアルコール消毒に変え、手洗い後は職員が子供の横でアルコール消毒してるところを見せていきました。

すると2週間くらい続けていると、次第に臭いという声はなくなり、今では何も言わなくても手洗い後にアルコール消毒するようになりました。

事例 2 放課後等デイサービス スティームプラス

田端 一雅 様

神奈川県相模原市中央区星が丘

「完全オンライン療育の可能性」

◆説明

当施設では、最新の IT 機器とゲームを使って英語（英会話）で療育する教室です。一般的に凸凹の凹に焦点を当てる教室が多いなか、凸に焦点を当てて療育をしております。

その施設で指導員も生徒も完全なオンラインレッスン（療育）を実際に行い経験したことをご報告いたします。

当施設では、緊急事態発令前に以下の準備を致しました。

- ・管理者に携帯電話・i-Pad・PC・プリンターを配布
- ・指導員には i-Pad 配布・PC を配布
- ・生徒さんには i-Pad を配布

管理者には、親御さんとの連絡をスムーズにするため、教室用の LINE を準備。

指導員・生徒には、i-Pad に ZOOM と教材をインストール

サービス指導記録等の情報連携に関しては、先生間は Google スプレッドシート。親御さんにはスマホで報告。

また、事前に模擬授業を実施し、オンライン授業に慣れるように配慮をしました。

ここで、重要なのは運用構築を業者等に依頼しないことです。

自ら作り上げ、トライ & エラーを繰り返すことが重要です。

その事により、授業中での IT 機器の問題にすぐ対応でき、授業中断することを極力少なくすることが出来ました。

◆課題

指導員の方々には、IT スキルを上げるための事前勉強が重要であることがわかりました。

また、通常の授業とは異なり、生徒さんが集中できていない場面も多く、それに対する対策も重要でした。

集中できない場面では、親御さん等の第三者の補助も重要ですが、一番重要なのは、生徒さんの興味を引き付けるような授業を作る事でした。

最近の生徒さんは、YouTube を多く観ております。そのため、オンライン授業でも、ユーチューバーレベルが最低限必要となります。

楽しく・面白く・授業をする。そのことが今後の指導員に必要なスキルであると感じました。

◆放課後等デイサービスの今後

一般的な放課後等デイサービスは、IT化が遅れているように感じます。

しかし、今回のコロナにより、社会はIT化が進み、これからの社会（仕事）では、ITを知らないIT難民は、仕事を得ることも難しい時代になると予想されます。

そんな時代になっても仕事ができるように、放課後等デイサービスで、じっくりとゆっくりとIT療育することが重要と考えます。

▼動画 URL

https://www.youtube.com/channel/UC3ecu_a1X-jhLfvnzYQiNsQ



事例3 株式会社ワン・ライフ リハビリテーション One 相生

小川 達矢 様

神奈川県相模原市中央区相生

地域密着型通所介護を運営しております。

コロナウィルス感染予防として、デイサービスをお休みされている方に対し、Zoomを用いて、デイサービスの体操を中継し、ご自宅で参加してもらう取り組みをいたしました。

ご利用者様のご家族にインターネット環境の設定や、訪問にてスマートフォンやタブレットの使い方を訪問にてお伝えしました。

環境設定が難しい方にはDVDをお配りし、ご自宅でも運動していただけるきっかけを作りました。

普段デイサービスに通うことで運動量を維持できていた方も運動量が落ちず、体の状態を維持できたことや、安否確認やコミュニケーションの機会として非常に有意義だったとご意見いただきました。

また、ご家族も一緒に取り組んだり、家族同士のコミュニケーション量も増えたと伺いました。

ご利用者様はお変わりなく通所も再開されております。

ご利用者様のご家族もジムや百歳体操等に通えず、運動量が低下し、介護保険の利用が必要になったケースもあると聞きます。

今後の福祉サービスにおいても気軽にオンラインでできる取り組みが大切になると考えます。

高齢者支援センターの職員様達だけでは、地域をフォローすることが難しいと感じましたので、福祉事業所が一貫となり、地域活動において高齢者に対し、インターネットやパソコン、スマートフォンの操作方法を指導していく取り組みも、介護予防として進めていく必要があると思います。



事例 4 社会福祉法人 横浜博萌会 汲沢地域ケアプラザデイサービス

佐々木 ゆかり 様

神奈川県横浜市戸塚区汲沢町

汲沢デイサービス（通所介護）における、新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

定員:通常型 30 名、地域密着型認知症対応 12 名 職員:42 名（介護士、看護師、事務、運転手）

今回の新型コロナウイルス感染症対策（令和 2 年 4 月より開始）

環境：対面式の 4 人座り机を 2 人座りの机に変更して、中心に向かい一方向に配列した。2 人机の間には、100 円均一で購入したハードタイプのクリアケースを縦に重ねて、同じく 100 円均一のブックエンドにて仕切り版を作成した。また、洗面台、コップなどを置くスペースも、職員間でわかるように、清潔エリアと汚染エリアを明記して仕切り版を使用して清潔を保持している。生活相談員の事務所にも、100 円均一のブックエンドと植木用支柱、透明なごみ袋を使用したシールドを作りエリア分けをしている。クリアケースには動物や風景の写真を入れて圧迫感の無いようにしており、とにかく簡単で安価なので、スピーディーな対応が出来た。

備品:利用者、職員ともにマスクの着用を必須としてきたが、マスクがなかなか購入できなかった為、ボランティアさんに依頼をして職員用のガーゼ（タオルなどを使用）を 300 枚縫ってもらい、職員に配布した。また、利用者でマスクを用意できない人の為に、ボランティアさんに、ガーゼ（不織布）と輪ゴム（繋ぎ合わせる）で使い捨てのマスクを 400 枚作ってもらい、送迎車内からマスクの装着が無いように対応した。見学者など、短時間の訪問者にはキッチンペーパーで作った簡単なマスクを使用してもらい、デイサービス内では必ず何らかのマスク着用を徹底してきた。

消毒：アルコール類の潤沢補充ができなかった為、使い分けを徹底した。利用者、職員の手指消毒はアルコールを使用、その他の消毒は、蓋付きのバケツ（足踏みタイプ）に 0・05% 次亜塩素酸ナトリウムに浸した雑巾を沢山入れて、散布せずにすぐに使用できるように準備した。傍には、ディスポ手袋や水拭き用の雑巾も用意した。次亜塩素酸 0.05% は毎日看護師が焼酎（4L）の空き瓶に希釈したものを何本も作り、ケアプラザの他部署にも分けて使用した。面倒な次亜塩素酸の希釈は看護師が行い、利用者、職員が触れる場所は介護士が行い、連携して感染予防を行うことができた。相談室、職員休憩場所も次亜塩素酸 0.05% の水拭きセットを用意して誰もが同じ消毒を行えるようにした。

事例 5 社会福祉法人 横浜博萌会 汲沢地域ケアプラザ

小松 淳子 様

神奈川県横浜市戸塚区汲沢町

ケアプラザでは、このコロナ禍において地域市民への貸館事業や自主事業をしばらくお休みしていましたが、7月から全面再開となり、それまでも行っていた消毒作業や感染予防の徹底を図りました。

一つは、来館者の手洗いのため、地域共催の夏祭りに使っていた洗いシンクを正面玄関の前に設置しました。手洗いを促す立て看板を見た来館者は、皆さん積極的に手を洗ってから入館されます。ただ、暑い季節の間は良いのですが、寒くなったら水しか出ないことが今後の課題かと思っています。

二つめは、施設内の消毒方法をマニュアル化し、来館者も職員も、施設（部屋、テーブル、器具等）利用の前後、ナイロン手袋をはめ0.05%の次亜塩素酸アトリウムで消毒後、水拭きすることを徹底しています。利用者宅へ訪問する職員は、小分けしたアルコール消毒薬を持参し、サージカルマスクをして感染予防に気をつけています。現在は施設のストック、補充購入、行政からの支給、寄付などで、衛生材料が途切れることはありませんが、感染者が出た場合やクラスターが起きた場合の対応や、衛生材料確保への不安は常にあります。

三つめは、事務室と受付窓口にお手製のシールドを作ったこと、トイレと職員更衣室の扉に触れないで開閉できるように、扉に100円均一のプラケースを挟みつけて20cmほどの隙間を作り、足や肩で開閉できるようにしました。来館者も手を使わず上手にトイレの扉を開閉しています。

四つめは、職員がマスクを外して食事をする時の対策として、対面にならないようなテーブルの配置、消毒、おしゃべりをしないなどを徹底しています。食事中、おしゃべりできないのは寂しいのですが、外の景色を眺めたり瞑想したりと、自由に過ごしている様子です。まさに、「新しい職場様式」を日々実践しながら感染予防しているところです。

事例 6 屋上テラスみどりや

松本 麻希子 様

神奈川県鎌倉市小袋谷

はじめに

私たちのデイは地域交流を基本とし運営してきました。

地域の方のボランティアによる音楽演奏やマジックショー、三味線の先生をお招きしての民謡の会の開催など、近隣の方々と一緒に楽しみ交流することが何より利用者様のリハビリになり生きる力にもつながっていくとスタッフ全員が信じて行っています。

隣接する保育園との交流は、デイサービスの前を散歩する園児たちに手をふることから始まり、園児たちもふりかえしてくれるようになって今では笑顔でハイタッチするのが日常となりました。そして利用者様も園児が通るのを今か今かと心待ちにする毎日でした。

コロナの出現 ～屋上テラスへの引っ越し～

みどりやでは園児たちとのふれあいはもちろん、コロナ感染が広がる前まで少しずつ地域との交流を広げてきました。敷地内の庭の壁に大きな白い紙を設置し、通りかかる子どもたちが自由に絵を描けるようにしたり、学校帰りの子ども達がおしゃべりをしたり歌を歌ってくれるようになり、小さな子どもを連れてお母さんたちも気軽に立ちよってくださるようになりました。利用者様もその気持ちや笑顔に癒され活力をもらい子ども達に喜んでもらえるようドラえもんやアンパンマンの大きなパネルを製作したり、園児ひとりひとりに手作りした節分飾りの鬼を贈ったりして交流を深めてきました。

ところが今回のコロナの出現により状況は一変します。

コロナ渦で私たちが最も危惧したのは「密空間」と園児たちや地域の方々との「濃厚接触」です。園児達とふれあっていた毎日がガラスのドア越しに見送るだけになりました。それでも利用者様は園児達がとおりがかるたびに立ち上がりますしまだ若い園児達はこちらに駆け寄ろうともします。

そんな状況を見て社長が動きはじめました。まず「密空間」を避けたい、そして外部との接触も可能な限り避けなければなりません。

今のままでと感染リスクは高まります。万が一感染者が出て休所になってしまえば利用者様は自宅にこもることで足腰の筋力低下を招き、日中の家族不在による会話の減少など認知症も進みやすい状況になってしまいます。何よりもデイサービスに通いたいという利用者様がひとりでもいる限りその声に応えたい、という思いがありました。その為にどうすれば感染リスクを可能な限り避け、利用者様が安心して通所できる場を提供できるかいろいろな角度から模索した結果、屋上テラスへの引っ越しという決断に至りました。

前向きに安全に

今回の引っ越しは決して簡単なことではありませんでした。認知症を抱える利用者様にとって慣れ親しんだ環境が変わるといことは大きな負担にもなりうるからです。しかしコロナ感染者が出てしまえば休所せざるを得ない、そうしたら利用者様はどうなるのか・・・。

社長の決断に一番驚いたのは私たちスタッフかもしれません。いくら密空間を避けたいからと言っても慣れ親しんだ場所を移ることの利用者様への影響やコロナ対策でデイサービスが引っ越し??などこの先どうなっていくのか不安が膨らみました。

引っ越した先のテラスは4階建ての屋上テラス付きの4階部分で室内と同じぐらいの広さの屋上テラスが目の前に広がります。屋上テラスには四季折々の花の鉢植え、ハーブ、野菜などが植えられています。目の前にはモノレールが走り眼下には電車や行き交う人々の姿があります。

屋上テラスに行って感じたのは、外部との接触はほとんどないはずなのにどこか人とのつながりを感じられ、太陽の光をいっぱい浴び風の音、雨の匂い、鳥のさえずりなど自然とともに一日を過ごせる場所だということです。ここなら利用者様もきっと大丈夫、そう思える場所でした。

ひとつひとつ楽しみながら

引っ越し先での日常は、朝来所したら室内フロアをそのまま素通りしテラスのテーブル席へ向かいます。空を見上げ雲の流れを目で追いながら、行きかう人々や電車を眺め引っ越し先での日常は、朝来所したら室内フロアをテーブルに飾る花を摘み、思い思いに生けたり入浴用のハーブもお好きな香りを選びながら摘んでいただきます。花を眺めながらのんびり散歩を楽しむ方もいらっしゃいます。天気の良い日はそのままテラスで昼食も楽しめます。

そしてこの朝のゆったりと流れる時間を持つことは利用者様にとっても大切ですが、スタッフにとっても大切な意味を持つ時間だと社長は言います。スタッフがバタバタしては利用者様が落ち着かないということもありますが、朝の慌ただしい気持ちを一息ついてしずめ、今日も一日利用者様が安心して安全に楽しく生活できるようにまずスタッフひとりひとりが気持ちに余裕をもって業務にあたるのが大切なのだと。

そしてこれから…

今4階の屋上という環境になり、外部との「接触」もほとんどなく「密空間」を避けテラスで過ごし、雨が降る日も風通しがよいので一日中窓もあけておくことができます。

毎日違う空を見上げ、今日やりたいことを考えたり通勤電車や朝の風景を眺めながら「これから会社かな、頑張ってるね」と応援したり、遠くの山々がくっきり見える日もあれば霞んで見えない日もあり、カラスはなんでなくのかなと笑いあったり、心を動かし、身体を動かす毎日です。そしてみどりやがずっと大切にしてきた「地域交流」。園児たちとのふれあいはできなくなってしまいましたがいつかまた会えることを楽しみに、風鈴を手作りし園児に贈りました。

コロナ感染のリスクをゼロにすることは難しいです。みどりやの利用者様も決して多いとはいええずスタッフも不足しているのが現状です。

それでもひとりでも来所したいと希望する利用者様がいればこれからも可能な限り対応していきます。終わりの見えないコロナ渦で、外部と接触できなくなったこと、今までの日常を変えなければならなくなったことをただマイナスとしてとらえるのではなく、うまく共存していく。厳しい状況はまだありますが、スタッフ一丸となりこれからも利用者様とともに歩み続けます。



事例 7 社会福祉法人 小田原福祉会 特別養護老人ホーム潤生園

井口 健一郎 様

神奈川県小田原市穴部

このコロナ禍の中、オンラインを活用した様々な取り組みを行いました。

まずはじめに、利用者と家族をオンラインでつなげるという試みです。

最高齢は 108 歳の入居者さんです。オンラインの効果により、ご利用者が久しぶりにご自宅がみられたり、闘病中の娘さんがベッド上から利用者であるお母さんにオンラインで会えたり、北海道に住んでいる娘さんがつながることもできました。また、看取りの段階では緊急事態宣言中は亡くなるまで病院では会えないケースはありますが、当方はオンラインでつなぐことができ、最期まで看取られたケースもありました。

関係記事 <https://youyoulife.jp/area/3430/>

二つ目はオンラインによる新卒者採用です。学生さんもオンラインに慣れているという状況もあり、また、我々もオンラインでの面接で質が落ちることがないように、学生さんたちとも適性検査のフィードバック面談を行いながら、質の高い新卒採用活動ができました。地方の学生も糾合できた好事例です。

関連記事 <https://helpmanjapan.com/article/9040>

コロナ禍でも市民に対して有益な情報を伝え続ける

FM おだわらにて当法人提供の『市民を介護で困らせないミンナの介護』という番組があります。

3 年目に突入し、100 回以上行っている同番組ですが、緊急事態宣言下では、感染症の様々な対策や施設の現状などを施設から発信しました。Spotify にて現在は幅広くアクセスできる仕組みを構築しました。

番組 [spotify:https://open.spotify.com/show/5ipZ4deRxeJSPQp1dBsdi?nd=1&nd=1](https://open.spotify.com/show/5ipZ4deRxeJSPQp1dBsdi?nd=1&nd=1)



事例 8 社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会 横浜市新栄地域ケアプラザ

田中 葵 様

神奈川県横浜市都筑区新栄町

コロナ禍を機に、地域が一体となった「みんなの夕方ラジオ体操会」の開催

新栄地域ケアプラザでは、7月31日から8月28日までの毎週金曜日に「みんなの夕方ラジオ体操会」を開催しました。新型コロナウイルスが流行し、3月から新栄地域ケアプラザの事業が中止となり、地域の方々からは「何かしてほしい」「家の中ばかりで退屈をしている」「身体を動かしたい」といった声も多く聞かれ、コロナ禍だからこそその繋がりやの創出や、一人暮らしが多い地域だからこそその閉じこもり予防が出来ればとこの企画を実施しました。また、これをきっかけとして、地域が一体となればと思ひ、近隣の店舗にも協力を呼びかけました。

○ 開催目的

- ・ コロナ禍で外出機会が減った地域の方々の状況把握と高齢者が外出をするきっかけとして
- ・ 体操を通じたコミュニケーションと、地域住民の健康の維持増進のため
- ・ 三密を避けて誰でも参加が出来る事業であり、地域ケアプラザの機能周知として
- ・ コロナ禍だからこそその繋がりやの創出と、地域住民の閉じこもり予防、地域が一体となるため



○ 内容

全5回、毎回15時開始15分程、ラジオ体操第一と法人オリジナルのブルーライトヨコハマ体操の実施。地域内の「ファミリーマート様」、「日産プリンス神奈川販売様」に「地域と一緒に外出機会の提供や健康づくりを一緒に出来ないか」と訪問し、働きかけを行いました。感染予防対策で、地域の集いの場や各種体操教室に参加が出来ない方々が多くいるということをお伝えすると、「私たちも地域に協力をしたい、地域とつながりを持ちたい」という企業側の希望とも合致し、各店舗とも毎回従業員と店長で参加され、各回終わりにノベルティグッズや水分補給のお茶を提供していただきました。また、地域内の消費生活推進員も参加され、コロナ禍の詐欺被害への注意喚起を行いました。



○ 取組結果

- ・ 毎回 20 名以上の参加者、延べ参加者数 127 人。
- ・ コロナ禍で外出の機会が減った地域の方々が、外出するきっかけとなりました。
- ・ 三密を避けて誰でも参加が出来る事業であり、地域住民の状況把握と健康の維持増進が出来ました。
- ・ 日頃来所されることのない地域住民にも、体操をきっかけにケアプラザの周知が出来ました。
- ・ 地域の企業や店舗と一緒に開催することと、地域自治会の連合会長、民生児童委員、消費生活推進員の参加など、地域が一体となった取り組みが出来ました。

事例 9 社会福祉法人 秀峰会 グループホーム風の生活館

西川 保則 様

神奈川県横浜市泉区和泉町グループホーム風の生活館

秀峰会グループホーム事業部では、新型コロナ禍にあり外出や近隣地域との交流機会が減る事を憂い、QOL や ADL 向上のため法人独自に合同作品展を開催致しました。

9つあるグループホーム施設のご入居者から、各施設毎に合同作品・個人作品を募集しました。

作品の規定は（富士山に関する作品である事）です。

ご入居者間のチームワーク、個性を尊重した応募企画で様々な作品が集まりました。（例：絵画・塗り絵・ちぎり絵・工芸・手芸・書道 他）法人内部、外部を含めて審査員を募り選定し、9月末に応募は締め切り 10月末に表彰発表を行う予定です。

私の勤務する風の生活館では、合同作品として長大な富士山模型（富士山自体：高さ 45 cm、奥行き 45 cm、横幅 60 cm 下地風景 森林：横幅 90 cm、縦 80 cm）を作成致しました。

富士山の原型をダンボールで作成し、貼り絵の要領で富士山上部は発砲スチロールをちぎり雪に見立て、山肌は山頂から白、水色、青色、濃紺とグラデーションになっており、森林も黄緑、緑、濃緑と色彩豊かな仕上がりとなりました。

一人一人の ADL に合わせて工作工程を分け、折り紙、発砲スチロールを千切るグループと貼るグループ等、ご入居者全員が参加し、工作中的のエピソードとして、富士山や山登りの思い出話が自然と出てきて『山で食べたおにぎりが美味しかった。皆で行きましょう！』と未来の希望に繋がるイベントとなりました。

最後に、ご入居者、職員で完成した作品を囲み集合写真を撮影し、ご家族に企画報告をさせていただきました。新型コロナ感染予防として、日々の生活に様々な制約がある昨今に、変化ある一石を投じられたのではないかと思います。



事例 10 株式会社アイム

佐藤 典雅 様

神奈川県川崎市宮前区土橋

川崎市内で4カ所の放課後等デイサービスを運営しています。

コロナの緊急事態宣言がでてから学校も一ヶ月以上休みとなってしまったキッズたち。放課後デイも長期の自粛期間を受けて教室の稼働率が半分以下に。多くの生徒たちがメールと電話を通じての遠隔利用になってしまいました。でも大好きなデイにもこれず、家で煮詰まってしまうキッズたち……。

そこで子供たちに明るい時間を家でも過ごしてもらおうと、アイムのスタッフが教室からズーム放送をすることに！ 4つの教室でアイデアを出し合って様々な企画を配信！

放送の第一部は毎朝30分間、その日の担当の教室が全生徒に向けてバラエティショーを放送。第二部は各教室ごとにわかれて、少人数でコミュニケーションタイム。しりとりやお絵かき選手権のゲームをしたり、お互いの近況報告。

ズーム放送を通じて、普段は教室であまり話さなかった生徒も、オンラインだと話してくれたり。普段とは違ったコミュニケーションをとることができました。そして他の教室のスタッフと会う機会がなかったキッズたちも、放送局でいろいろな教室のスタッフと仲良しに。

コロナの自粛期間中、オンラインを活用して生徒たちと楽しい時間を過ごすことができました！アイム zoom 放送局の様子を動画にまとめたのでYouTubeでご覧いただけます！

【特集】『アイム ZOOM 放送局です！』
放課後デイのコロナ自粛期間のチャレンジ
<https://youtu.be/UR7B3tdLO2k>



事例 11 株式会社アイム

日下部 政暢 様

神奈川県川崎市宮前区土橋

『川崎シェア』というアイムの放課後デイが行なっている活動についてご紹介させていただきます。

<http://imhappy.jp/share>

コロナという特殊な状況下において、アイムが川崎市の福祉事業所と連携をとれないかと始めた試みです。コロナの自粛期間を受けて、川崎市の方から利用者の自己負担に関して様々な通知が段階的に来ました。しかし、情報が細切れであったり変更があったり、自己負担額の計算方法が複雑になってきました。しかも同業他社との上限管理によるやりとりがあったのですが、それぞれの事業所の情報量や認識に違いがあり、請求業務に混乱が生じました。また利用者の中には、この場合どうするのだ？といったケースもあったので、行政に問い合わせたところ、回答が戻ってくるのに時間がかかる状態でした。多分様々な事業所が同時に同じ問い合わせを行政にしているのだろうと推測されました。

そこでこの事態はなんとか緩和できないかと考え、『川崎シェア』というページを我が社のホームページ内に設けて、川崎市内の福祉事業所にファックスで周知しました。ここでは、我が社が行政に対して聞いた質問と戻ってきた回答を掲載しました。そうすれば行政に同じ質問が集中するのを緩和できるだろうと考えたからです。この取り組みで必要な情報を他事業所と共有することができました。

同時期に大手企業から中古PCモニターを50台寄付したいという話が来ました。これはテレワークのために役立つと考え、こちらも『川崎シェア』で周知。一つの事業所に4台まで無償で配布することにし、多くの事業所の方々に役立てて頂くことができました。

最近では行政から頂いた防御服とフェースシールドを使わない事業所から集めて、高齢者施設など必要な事業所に譲る活動も行っています。ぜひみなさまのご協力もよろしくお願い致します！

事例 12 善了寺デイサービス還る家ともに

三根 周 様

神奈川県横浜市戸塚区矢部町

これまでのデイ、これからのデイ、

「早く（往生の）お迎えが着たらいいのに・・・」

「あの時（倒れた時）ポックリ逝ってしまえばよかったのに・・・」

デイで過ごしている時、そのような言葉を耳にすることがあります。その方の歩んできた人生の苦楽・道りを図ろうとしても、僕は43歳。大体の方にとっては半分程度の年齢、青二才。とても図ることは出来ません。

デイサービス'還る家ともに'に集う方々は、決して望まなかった要介護状態になり、来たい訳じゃなかったデイに行くことになり、そんなこんなのご縁のなかでともに過ごしています。

『ひとりじゃない。独りぼっちじゃない。仲間がいるのさ。』

忌野清志郎はそう歌っていました。

僕はその歌声に背中を押され、皆さんと接してきました。「望まなかった要介護、望まなかった出会い、でも人生そんな捨てたもんじゃない、仲間がいるのさ」と。

それを体現するうえで、精神的・身体的に'密'であることを大切にしてきました。

時にはともに泣き、ともに笑い。隣に座って同じ景色を眺めながら、その温もりを大切にしてきました。

しかし、新型コロナウイルスの感染を防ぐためには大切にしてきた身体的な'密'を避けなければなりません。デイの日常で行っていた歌の会やトランプなどのカードゲーム、皆さんとテーブルを囲んでのお菓子作りなどは、感染防止のため自粛しなければなりません。事業所内の消毒・清掃もこまめに行わなくてはなりません。出来ない事や、やらなくてはならない事が増えた事で、今までの過ごし方と変わってきた部分もあります。暫くの間過ごした方としては、敷地内での日光浴や散歩、体操、折り紙、しりとり、談笑など手を介さないものが中心となります。

身体的な部分での密は避けなければなりません、精神的な密は今まで以上に大切にしていきたいと思います。

それを言葉にするのは難しいのですが、あえて言えば'ともに在ること'。その関係の中での想い、感情、衝動を大事にしていきたいと思います。今は皆さんと喜びを分かち合うことを楽しみにしながら、花や野菜を植え、育てています。

—仲間がいるのさ—

手探りの中でのデイの運営となりますが、みんなで力を合わせて頑張っています。

この先コロナ禍の中で、福祉が人と人とのつながりの希望の光となることを願って、

事例 13 大栄管理株式会社 デイサービスえいわん菊名

武田 博美 様

神奈川県横浜市港北区菊名

8月の事です。

ゴーツートラベルを利用しご家族で温泉旅行へ行きます。と、ご利用者様に言われました。

とても嬉しそうに月末お休みします。と、言ってきたので、つい、そうですかわかりました。と、答えてしまいました。

・・・しかし、稼働も良くないのですが、もしもの事を考えると・・・不安になり、ケアマネジャーに相談し、旅行帰宅後14日間分の検温シートを郵送させていただき、異常が見られなければご利用再開としました。

その後、約束通り、検温シートを提出していただき、何事もなくご利用再開されています。

職員にもご利用者様にも理解いただけた事と、まだまだ続くコロナ対策を真剣に取り組む姿勢を崩さないようにしたいと思います。

事例 14 横浜市多業種交流会『浜 CHAN』

志摩 宙人 様

横浜市港南区上大岡西

法人の枠を超え活動している非営利な団体横浜市多業種交流会『浜 CHAN』です。

参加者様としては吉野家様から屋形船屋さんまでが参加されています。

★事業所 8 月 15 日に開催したイベントについて・・・

例年であれば対面で行っていたであろうイベントをコロナ禍によりはじめてオンラインで行いました。

本来 4 月 12 日に予定されていたイベント（1 部に映画ケアニンの介護指導を担当された鈴木真さんによる認知症サポーター養成講座。2 部に若年性認知症当事者の丹野智文さんの講演）をコロナの影響で 8 月 15 日に延期し、更に定員をソーシャルディスタンスを考え収容人数の半分の 150 名まで絞り開催する予定でしたが、それでも対面開催は相応しくないだろうという理由で開催 2 週間前に急遽オンラインに切替開催いたしました。

良かった点・・・定員を 150 名を超える 160 名以上で開催できた。コロナ禍でイベントは開催しないという風潮を安全な方法で少しでも打破できた。前日にオンラインの接続テストも兼ねた前夜祭を行い北は宮城県から南は沖縄まで全国各地から参加頂き、丹野さんも参加してくれたことにより普段中々直接聞けないことなども語って貰うことができた。

反省点・・・前夜祭での接続テストを行ったことで用意周到に準備したつもりであったが当日繋がらない等の問い合わせが数件あった（すべて対処は出来たが次回はこちらをゼロにしたい）

★ 9 月 17 日に少人数（20 名で）行ったオンラインもしバナゲームイベント（ミニイベント）について

良かった点・・・コロナ禍でもできる方法を考えれば開催できた。

コロナ禍で色々な優先順位が変わってきていることに気が付けた。

反省点・・・お一人のみ通信エラーで退出になってしまった。

★総括：コロナ禍でも出来ることを役員みんなで探したからオンラインイベントを成功させられた。オンラインイベントにより全国どこからでも参加して貰える素晴らしさを実感した。イベント以外でも法人を超えて勉強会を考えたり、ウイルス対策等の情報交換などがスムーズに行える環境を作れている。『浜 CHAN』は参加者（現在 540 名の登録）を 2021 年中に 1000 名超えを目指し、掲げている『だれ一人とり残されない街』を創造し、『認知症キャラバンメイト活躍の場の提供』を実施していく。



事例 15 社会福祉法人 横浜鶴声会 やまゆりホーム

晝間 靖裕 様

神奈川県横浜市鶴見区獅子ヶ谷

敬老会における保育園児のオンライン訪問

私たちの特養では、敬老会を毎年開催しています。イベントの一つとして、同法人の保育園の5歳児に来所して頂き、歌などのプレゼントをして頂いていました。

しかし、コロナ禍で来所が困難になったため、zoomを用いたオンライン訪問を企画し、実施しました。

予算的に、費用を多く掛けられないため、知恵を振り絞り出来るだけ施設にあるものを使用しました。家庭用のビデオカメラ、ノートパソコン、プロジェクター又はテレビと既存のポータブルスピーカーを用いて実施しました。また、通所も同時に実施し、保育園、特養、通所の三か所の中継となりました。

《取り組み事例の成功例》

ご利用者も初めての事による戸惑いはありましたが、司会者から園児に“手を振って下さい”“声が聞こえていたら、丸をつくって”など声掛けなどをして、実際にスクリーンの向こう側とオンラインで繋がっている事を分かってもらえました。結果はとても好評で、最後には“また来てねえ”“ありがとう”などの声もあがりました。通所のご利用者へもとても好評でした。

コロナ禍によるボランティアの慰問を中止して既に半年が経っていた為、それも相まってスクリーンに向かって手を振るなど、楽しいひと時を過ごしていただきました。

今後は、ボランティアによるオンラインの訪問も実施予定です。

《取り組み事例の今後の課題》

スピーカーなど簡易的なものを用いたため、マイクの位置によってはハウリングを起こしてしまうなど、機器による課題や他事業所との連携をどのように行うかを考える必要がある。

《今後の福祉サービスに必要なこと》

コロナ禍により、オンラインを活用して実施いたしましたが、コロナ禍が終わってもオンラインを用いてのイベントの実施など、ネットワークの活用が重要になります。また、特養の入居者、デイサービスの利用者がオンラインを活用する事で、仮想外出等何かをしたいと思う事が、オンラインを利用してできる事は幅広くあると思います。

既存の考え方に囚われるのではなく、柔軟な発想で物事を考え、利用者・入居者、家族、地域、職員が一体的に活用できる事が必要であると思います。

事例 16 有限会社 足柄リハビリテーションサービス 共生型デイサービスセンター well

安藤 祐紀 様

神奈川県小田原市久野

コロナにより、屋外活動やボランティアの参加など事業所のイベントが少なくなりましたが、感染に注意しつつ新たな取り組みを実施することができました。

外部業者が絡んだ農業リハビリは以前から実施していましたが、コロナ禍ということで、外部業者ではなく利用者様の畑を活用させていただきました。

今回はブルーベリー収穫作業を実施させていただきました。

農業リハビリではソーシャルディスタンスもとることができ、良い環境下で思う存分能力を生かすこともでき暗いニュースが出ている中ですが利用者様の表情は明るく、室内の運動では見られない表情や能力を見ることができました。

コロナ禍活動を中止にすることは簡単ですが、如何に今まで行っていた活動を継続させていくか、さらに発展させていくかはこの活動以外のことも課題であると感じていますが、これからもどんどん活動は実施していきます！





事例 17 有限会社 足柄リハビリテーションサービス 共生型デイサービスセンター well

安藤 祐紀 様

神奈川県小田原市久野

コロナにより、屋外活動やボランティアの参加など事業所のイベントが少なくなりましたが、感染に注意しつつ新たな取り組みを実施することができました。

訪問リハビリテーション振興財団さまからの依頼で、研修に使用する冊子の封入、宛先の貼り付けの作業を請け負うことができました。

レクレーションや手作業などは楽しく手軽に行ってきましたが、仕事となると集中し緊張感のある時間になりました。北海道から沖縄までの郵便物を自らの手で封入していくと、作業後には旅行話に花が咲いたり、「仕事をした」達成感を感じさせる話も出たりと、今までデイ利用時には出てこなかった雰囲気になりました。

コロナ禍活動を中止にすることは簡単ですが、如何に今まで行っていた活動を継続させていくか、さらに発展させていくかはこの活動以外のことも課題であると感じていますが、これからもどんどん活動は実施していきます！



事例 18 有限会社 足柄りハビリテーションサービス 共生型デイサービスセンター well

安藤 祐紀 様

神奈川県小田原市久野

県西リハビリテーション協議会様の依頼で小田原観光協会様と協力させていただき、小田原城の本丸広場まで行く観光用カート実証実験に利用者様が参加しました。

小田原城へは石階段以外に回り道として段差がない道もありますが、急坂で電動車椅子でさえ悲鳴を上げる程で、年を重ねると行きたくても行けない場所になってしまっていました。

今回観光用カートの実証実験に参加させていただいたことで、急坂もなんのその参加者 10 名全員小田原城まで行くことができました。ゴルフのカートなので、乗れるか心配もありましたが、90歳超えた方、片麻痺や歩行器使用の方皆乗れ、乗り降りや走行中の危険もなく実験は成功を収めました。

「50年ぶりに来た」そんな体験をできるのはすごい事です、これからも「このデイに来れば可能になる」「出来ないままにしないデイだ」と言われるような事業所になっていきたいと思っております。



事例 19 児童発達支援事業・放課後等デイサービス トータスキッズ

高橋 嘉誉 様

神奈川県横須賀市長沢

知的障害と発達障害の子どもと家族の支援を行う NPO 法人ファミリアの一事業「トータスキッズ (<http://www.ts-kids.com>)」では、4 月中旬より緊急事態宣言による臨時休校で外出できない子どもと家族に対し、Zoom を駆使したオンラインによる支援を行いました。

緊急事態宣言が出た 3 月。公共施設の閉鎖も相次ぎ、行き場所を失い家に孤立している家族からの多くの声。外出自粛が長期化する中でトータスキッズの保護者の顔にも疲労感が満ち、社会でも DV、ネグレクト等による二次障害がすでに起き始めていると聞かされました。

これに対して、私たちにできることはないか。その思いで、始めたのがこのオンライン支援です。

まずは、オンラインでの療育相談を企画。告知したところ、日本国内はもちろん、地球の裏側アルゼンチンからも問い合わせがありました。

仕事の都合で赴任したものの、コロナの影響で 12 月までは帰国できないことに加え、長期間療育や幼稚園に通うことができず、孤立した状態だった未就学児のご家族。 疲弊したなか、私たちの取り組みを見つけてくださり、支援をすることができました。 日本夜の 8 時、アルゼンチン朝の 8 時と 12 時間の時差。問題行動に関する対処の仕方、未然に防ぐための環境整備、そして正しい行動への導き方・・・そんな仕組みの解説とともに、「本当、毎日子供とどっぷりってしんどいですよね・・・」と、ママトークも。

終了後、「高橋様、療育相談を受けさせていただきまして、ありがとうございました。大変参考になりましたし、楽しかったです！」と、喜びのメールをいただきました。

そして、オンラインでの学習支援。zoom を使い、パソコンとタブレット 2 台を駆使しながらの支援。画面の前にいるということが難しいお子さんもいる中、すべてのお子様には難しい面もありましたが、できることから始めるということにつなげ、4 月から 8 月で 165 件の支援を行うことができました。

今回のコロナによる緊急事態を受け、明日何が起こるかわからないという日常を経験している私達。だからこそ、私達 NPO 法人ファミリア及びトータスキッズは、課題をどうしたら解決できるかを考え続け、「ともに生きる」の実践モデルを横須賀、そして、神奈川から日本に発信していきたいと思えます。

事例 20 株式会社つながり 認知症対応型デイサービスひだまり

神馬 幸子 様

神奈川県横浜市神奈川区六角橋

認知症対応型デイサービス

緊急事態宣言下1か月半の通常営業自粛を行った各利用者ごとアセスメントを行い

- ①入浴のみ通所対応
- ②訪問型への切り替え
- ③通所をお休み の3つになった。

途中再アセスメントを行い、利用方法を短時間の通所に替えた人も居た。

通常の通所営業再開に向けて感染症専門で指導医でもある医師に施設訪問していただき弊所で
の予防対策の指導をしてもらった。

利用者やケアマネには3月より、弊所の状況がわかりやすい様に写真入りのチラシを作成し配
布。

また、訪問時には利用者間や施設と利用者、家族間での関係性が少しでも保てるように、タブレッ
ト端末を利用し、メッセージ動画を撮影した物や、演奏や歌をいつものスタッフがを行い動画にし、
届ける事をした。

利用者訪問し家族と話す時間が増え、その内容をケアマネに伝えるなどの情報共有が深まり、
今持っている課題の再アセスメントも出来た。

感染症専門医の指導による、正しい情報をスタッフ全員で共有し、その内容を利用者にも伝え、
施設としても頑張っているの、利用者の皆様も協力いただきたいことを伝えたり、また、対策
を十分に行っているがそれでも万全では無い事を考慮して利用をして欲しいとケアマネに伝え続
けている。

事例 21 社会福祉法人富士白苑 平塚富士白苑

鈴木 涼太 様

神奈川県平塚市唐ヶ原

2020年春、「七夕祭りも今年は中止だって!」「花火大会もやらないみたいだよ!」との声が、施設内を飛び交いました。

私たちの施設は、神奈川県平塚市にあります。毎年7月に開催される平塚七夕祭りにご利用者が参加される事が毎年の恒例行事でした。ご利用様は平塚七夕祭りできれいな七夕飾りを見て、昔ご家族と一緒にお祭りに来た思い出を懐かしんだり、「おお!すごいねぇ!」と大きな飾りに驚かれたりする様子を見る事が私たちの喜びでもありました。また、施設の屋上からは平塚・大磯の2カ所の花火大会を見物することができ、七夕祭りと並んで夏の大きなイベントの1つでした。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で、このようなイベントがすべて中止となり、残された夏のイベントは毎年の一大イベント「納涼祭」だけとなりました。「コロナからご利用者の命を守る」事を再優先に感染症対策をとる中で、どうにかして「七夕祭り」「花火大会」を楽しんで頂けないか。コロナ渦でも安心して楽しんで頂けるようなお祭りを職員皆で話し合い作り上げました。

ユニット毎にご利用者様・職員で協力し七夕飾りを作成。当日は9つの七夕飾りをライトアップし演出。一番ステキだと思うものに投票をして頂きました。またプロジェクターを使用し大きなスクリーンに花火大会の映像を映し、ご利用様は「本物みたいだね」「すごく綺麗だ」と涙を流される方もいました。お祭りらしく「あんみつ」の屋台も出し、皆様「美味しいね!」と召し上がっていました。

密集・密接を避ける為、普段一緒に生活をしているユニット毎に時間を区切って数名ずつの参加。床には2m置きにテープを張り、ソーシャルディスタンスを確保する。ご利用様にも手指消毒やマスク・グローブ着用して頂くなどの対策をとっての実施となりました。

面会制限がかかり、普段なかなか会う事が出来ないご家族様には納涼祭の様子をお便りに写真を付けて送らせて頂きました。「素敵な写真をありがとう」という声も頂きました。

コロナウイルスによって、さまざまなものが制限され、日々不安な毎日を過ごしているご利用者様にひとときの「笑顔」を取り戻す事が出来ました。今後もこのような施設内で行える企画をコロナ禍で外出が難しい中でも考案していけたらと考えています。

https://www.youtube.com/watch?v=XmCLvj1HS_c&feature=youtu.be



事例 22 株式会社ツクイ

菊池 友香 様

神奈川県横浜市港南区上大岡西

コロナ禍におけるサステナブルな商店街支援

株式会社ツクイ（以下、ツクイ）は、横浜市戸塚区にて活動している「とつかりビングラボ」に約4年前より参画。これまでもリビングラボを通じて、様々な取り組みを行ってきた。

「とつかりビングラボ」とは、暮らしを豊かにするため、地域の医療・介護・子育て・障がいの地域課題も多面的・共生的な視点でとらえ、地域価値を生み出すことを目的とし、そこに賛同した多種多様な企業・法人が集まり、地域包括ケアシステムの新たなプラットフォームをとして形成している。

今回ご紹介する取り組みは、このプラットフォームを通じて、『コロナ禍における持続可能な支援』をテーマに高齢者・介護事業所・商店街それぞれにとって有益且つサステナビリティの高い支援を目指し取り組んだものである。

対象の地域は、横浜市戸塚区。同区内の商店街（以下、商和会）も新型コロナの感染拡大によって、各店舗の売上げが激減するなど大きな影響が出ている。

中には売上げが9割減となった飲食店もある。この現状に対しとつかりビングラボメンバーでもあり商和会の事務局も務めている認定NPO法人こまちぷらすさんよりツクイへ相談があった。

このような地域課題に対し“ツクイ”として何ができるだろうか？

コロナ感染の終息がみえない状況を踏まえ、提案するスキームは持続可能であること、そのためにはビジネス的な要素が必須であると考えた。そこで商和会に所属する飲食店からツクイが運営する戸塚区の通所介護事業所（ツクイ横浜川上・ツクイ横浜東俣野）やサービス付き高齢者住宅（ツクイ・サンフォレスト横浜戸塚東・ツクイ・サンフォレスト横浜戸塚南）に昼食等を提供する宅配サービスを提案し、5月よりトライアルを開始した。

お客様の笑顔・声といった反響は大きかったものの、多くの課題も見えた。

そこで提供先の選定、一連業務の削減・効率化を図るためのITの活用などをさらに提案。ITに関しては企業とのマッチングも行った。

このスキームが完成したら、まずはリビングラボメンバーを通じ、ツクイ以外のサービス事業所へも展開していく予定。外出がままならない高齢者への“楽しみの提供”、売上げが低迷していく飲食店への“収益支援”。双方がWin-Winになるスキームは『とつかりビングラボ』を通じて完成しつつある。株式会社ツクイは、引き続き地域連携のためのソリューションを提案していきたい。



全国で感染例が広がる新型コロナウイルスによる甚大な影響を受けている
 戸塚宿ほんのほの高和会を応援するための支援プロジェクトを立ち上げました。
 身近な存在である地元商店会の味をイベント食として提供させていただきます。

第 弾

戸塚の美味しい ランチを食べませんか？

- 日時
- 本日のランチ
- 料金
- お品書き

＼お申し込みは受付まで！

＼店頭でもランチの販売を行っております！



〈運営・サービス提供〉
 ツクイ・サンフォレスト横浜戸塚東

事例 23 株式会社 manaby 横浜長者町事業所

関 和代 様

神奈川県横浜市中区長者町

「manaby リーフレットスタンド制作プロジェクト」

manaby は独自開発の e ラーニングで IT スキルを学ぶ就労移行支援事業所です。

外出に困難がある方は在宅訓練も可能で、横浜長者町事業所では利用者の約半数が在宅で学んでいました。

このコロナ禍、通所時の感染リスクを減らし事業所の密を避けるために一時的に在宅訓練に切り替えた利用者もいます。

ノウハウのおかげでコロナ禍も大きな混乱なく訓練を続けてきましたが、支援員は、特にこの状況下だからこそ利用者のためになる何かができないかと考えました。

そして、関連機関を訪問した際にリーフレットを立てて置くスタンドがあるといいなと感じたことをきっかけに「チームで何かを成し遂げることのすばらしさを体感してほしい」とスタンド制作プロジェクトを立ち上げます。

早速デザインを学ぶ利用者 3 名が参加して始動。自分の意見は言う、相手を傷つけない、など基本ルールを支援員が決めて、メンバーが主体となって進行しました。

在宅訓練をするメンバーも週に 1 度は面談のために通所するため、そのタイミングで打ち合わせを設定。チャットを使ってアイデア出しや情報共有を行い、週 1 で集まりサンプルをもとに意見を出し合います。

特殊な形状のスタンドは展開図の設計が難しく、キャラクターを生かせるようデザイン細部にこだわりました。

チャットは思いの齟齬が出やすいといった課題もありますが、メンバーは丁寧な言葉で絵文字を織り交ぜ和やかに進めていました。

発言が苦手な人も周りが尊重し受け入れてくれることで、積極的にアイデアを出すことができるようになっていきました。

チャットでの進捗共有のおかげで、メンバーが休んでもデータ引き継ぎに問題なし。このプロジェクトを通して、自信が持てなかったメンバーが凛と笑顔で自分のアイデアを説明する姿が見られました。

また、コロナ禍では特に一人で訓練を進めることが多かったので、事業所でパーテーションを挟んで談笑しながらの作業が気分転換になっていた様子も感じられました。

コロナ禍に限らず、障害や特性によって自宅で働くことが一番力を発揮しやすいという方も多
いはず。就労移行支援の現場でも、チャットやビデオ通話ツールを使ったやり取りなどで、多様
な働き方に合わせた支援が増えるといいなと思います。

私たちも、一人でも多くの方が自分らしく働けるように、これからも寄り添ってチャレンジを
続けます。



事例 24 アースサポート株式会社 アースサポート横浜

小山 あい 様

神奈川県横浜市西区岡野

対策実施内容

- ・ 対策本部の設置と対策会議による、全社的取り組みの決定
- ・ 職員に対する健康管理フローの周知徹底
- ・ 職員の体調不良に関する報告フローの設定と対策本部における迅速な情報収集
- ・ 施設サービスにおける、感染予防対策の策定と周知徹底
- ・ お客様やご家族に対する、感染症まん延防止への協力依頼
- ・ 職員に対する、マスク・フェイスガード・手袋・ガウン等の配布
- ・ 消毒剤の確保
- ・ 感染者及び濃厚接触者、疑感染者発生時対応フローの策定と周知徹底
- ・ 社内感染対策実施（うがい手洗い徹底、アルコール設置・アクリル板設置等）
- ・ 非接触型体温計の購入（施設利用者・求職者含む拠点への来訪者に対する検温）
- ・ 施設サービスにおけるイベント・ボランティア周知の中止
- ・ 施設サービスにおける来訪者制限
- ・ 施設サービスにおける来訪者に対する感染予防策の依頼
- ・ 地域における感染状況に関する情報収集
- ・ 職員が集合して実施する研修やミーティングの中止
- ・ オンラインによる研修やミーティングの実施
- ・ オンラインによる会社セミナー・スタッフ面接の実施
- ・ 出張業務の制限（必要最低限の出張に限る）
- ・ 職員に対しての移動制限への協力要請（勤務時・プライベート含む）
- ・ 拠点間での訪問を自粛し、社内書類のやり取りについては原則郵送対応
- ・ 自社出勤の推進・直行直帰の推奨
- ・ 自宅から近い距離における出勤許可（リモートワークの実施）
- ・ 業務効率化による残業の削減
- ・ 各自治体からの特別支援金の申請、緊急包括支援事業による職員慰労金の申請
- ・ 危険手当・特別一時金の支給
- ・ 面接者に対し、検温の実施、マスク着用推奨等、感染防止策の実施

対策結果

- ・ 職員の感染を概ね防ぐことができています。
- ・ 職員一人一人の健康管理意識が高まり、インフルエンザや風邪が減少できた。
- ・ 体調不良者が自ら申し出やすい環境が整備できた。
- ・ 感染予防備品の在庫状況を速やかに把握し、適宜供給が行えている。
- ・ オンライン会議が浸透したことにより、生産性が向上した。

事例 25 株式会社ツクイ ツクイ横浜希望が丘

出本 卓司 様

神奈川県横浜市旭区中希望が丘

「お客様の生命と生活を守ること」が訪問介護員の一番の責務であり使命とも言えます。

コロナ禍によりリモートワークが広まりつつありますが、訪問介護員は1件1件訪問して初めて仕事が成立します。

訪問介護のサービスに障がい者の方の移動支援、外出の介助もあります。

ですが、不要不急の外出を避けるようにとの通知が出ている事もあり、新型コロナ肺炎を理解できる方であったり、外出しない事が理解できる方は相次いでサービスがキャンセルとなりました。

その中で、特に重度の知的障がいの方は外出が生活の一部であったり、必ず行わなければならないルーティーンの方も多くいらっしゃいます。

決まった場所行く、決まった場所を触り触った手をすぐ舐める、マスクしようにもすぐ外す、アルコール消毒は非常に嫌がり見るだけで手を隠す・等々、ほとんどの感染症対策の受け入れができません。

それでも我々訪問介護員は手を変え品を変え、電車やバス移動ではなくタクシーを利用し人との接触をなるべく避けたり、消毒をウェットティッシュにしてみたり、職員や家族の方と協力して気に入った柄のマスクを用意してなるべく長く着用していただいたり・あらゆる手を考え必要なサービスが提供できるよう尽力しています。

感染リスクと使命との間で悩み、苦慮はしますが、それでも訪問介護員がいなければ生活が成り立たない方のために、コロナであっても台風や雪の日であっても我々訪問介護員はお客様のお宅へ訪問させていただきます。

「お客様の生命と生活を守るために」

事例 26 株式会社ツクイ ツクイ横浜小菅ヶ谷

堤 綾子 様

神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷

感染予防と機能訓練

デイサービスの朝送迎にて、「スタッフは体温計を首からぶら下げて、アルコール剤を持って出発する」というスタイルからコロナの取り組みが始まりました。

今ではお客様も熱を測ってから来所することが定着し、体調変化の気づきに敏感になりました。

朝夕の車内消毒も徹底的に行い、お客様、スタッフ共に安心して乗ることが出来ています。

換気にも心掛け、ほぼ窓は開けての営業となっています。

また作業レクとしてマスクづくりにも挑戦いたしました。

マスクを忘れた方の為に差し上げた時はどちら側からも笑顔がみられ達成感がありました。

運動面においても、以前のように出かける事が少なくなり体を動かす事が減ってしまったお客様に、デイサービス内での個別訓練とは別に PT が自宅での訓練を考え冊子を渡しております。ご

家族から「自宅にて行いました」と日付と印があり、交換ノートのようになっております。

いつまで続くかわからないコロナ禍の中でもデイサービスで楽しみを見つけて頂き、サポートさせて頂きたいと思っております。

事例 27 株式会社ツクイ ツクイ・サンフォレスト横浜戸塚東

成澤 まどか 様

神奈川県横浜市戸塚区吉田町

新型コロナウイルスの蔓延により、当事業所でもサ高住にお住まいのご入居者様たちの様々な活動が制限され、ご入居者様たちの楽しみであるアクティビティが3月から、殆どできなくなってしまいました。

スタッフもコロナ禍の中でも何かできないかと様々な企画を考え、今だからこそそのスタイルで行っているアクティビティがありますので、ご紹介したいと思います。

句会は、今までは月に一度集まってお題を出し披露するというものでしたが、今は形を変え、先生が出したお題をフロントで集め、皆様に配布し披露するという形に変え、句会を継続しています。

もう一つはお客様からのアイデアで、通信囲碁倶楽部の開催です。

一つの対戦で、1セット交換日記の様に1手1手記入しフロントを通して相手にお渡しする。

以前は、限られた時間の中で対戦していたのですが、ゆっくり考え次の手は何が来るのか、戻って来るのを考える時間があるのも楽しみの一つになっています。

エントランスや食堂でノートを見ながら考え込んでいるお客様の姿をみて、新しい生活様式が始まって行くのを感じています。

事例 28 社会福祉法人 中心会 えびな北高齢者施設

藤村 淳 様

神奈川県海老名市上今泉

この7月以降ヘルパーさんに1台ずつスマートホンを支給し、様々な方法で活用しています。それ以前はサービス提供責任者と登録ヘルパー間での情報共有に問題を抱えていました。登録ヘルパーは直訪直帰の為に顔を合わせて報連相することは無く、FAXを使用した紙ベースの報告書や電話口での口頭でのやりとりになっていました。

その為、報告書の紙の山に埋もれて欲しい情報にたどり着けなかったり、電話では想像力を駆使してもお互い相手の言わんとしていることが理解しづらい状況がありました。

新規利用者様は事前に事務所で行う手順の引継ぎなども重要なのですが、そこへコロナ禍が追い打ちを掛けることになり、直接ヘルパーと顔を合わせてのやり取りさえ絶望的となってしまいました。

そこで計画していたヘルパー事業でのICT化を、なるべく費用を掛けずに推し進めることになりました。

結果いくつかのアプリを活用し情報共有することで、業務の効率化やスムーズなサービス提供が可能となっています。

これはいつ終息するか先が見えないコロナ禍の現状でも十分有用な取り組みだったと考えます。

具体的には、LINEアプリをサ責からの指示～ヘルパーからの報告に使いました。

画像や動画も添付することで、今までは出来なかった視覚に訴えて効率的な情報共有ができています。

また、利用者の介護計画書などヘルパーが閲覧する書類はgoogleドライブを使用しました。

上記のアプリにてヘルパーと顔を合わせることなく、詳細な情報をタイムリーに共有することが出来ました。

登録ヘルパーのスケジュール管理のみ専用のアプリを導入しましたが、これにより予定実績管理についてもオンラインで出来るようになりました。

最初はスマホに苦手意識を持つヘルパーさん達も多かったのですが、お互いに教え合いながら（LINEでやりとりしています）、今では上手く使いこなしています。



事例 29 社会福祉法人 中心会 えびな北高齢者施設

稲垣 誠 様

神奈川県海老名市上今泉

コロナ禍の中での面会から

はじめに

令和2年に入り、全世界が新型コロナウイルスの猛威に晒され、私たちの日常もすっかり様変わりしてしまいました。

高齢者の生活を守る我々施設職員も細心の注意を払いながら日々の対応にあたっています。そんな中、当然のことながら感染拡大防止の観点から①外部からの人の出入りを禁止、②職員の感染予防の徹底に重点が置かれています。

特に①においては家族も例外ではなく、令和2年2月28日をもって家族の面会を全面見合わせることにしました。

取り組みの紹介

緊急事態宣言終了後の5月、状況を見ながら一部面会解除を行いました。予約制で1階（利用者の居住スペースは2階と3階）へ利用者を誘導し別室で短時間の面会となります。しかし、神奈川県内の感染者が増加傾向にある事からすぐに面会を見合わせることにしました。

この時期、同時に行っていたことがスマートフォンを利用したLINE面会です。家族のスマートフォンとノートパソコンを接続してオンライン面会を実現させました。

その反面、面会禁止の中ターミナル期を迎えた方については特例と判断し通常通りの面会を許可としました。

また、当施設は周りをベランダに囲まれているので家族には外階段から上がってもらいベランダから窓越しに面会をして頂くことを勧めています。

こちらの方が利用者にとっては反応が良いようでした。

考察

家族は面会が出来ないことを理解されていても大きな不安を抱えています。

様子は変わっていないか、認知症は進行していないか、食事はきちんと食べているか、痩せていないか、ストレスは溜まっていないか。実際、家族と会えないストレスで免疫力が低下し体調を崩す方もいたと思います。

極力、様子が分かるよう家族への連絡は定期的に行っていましたがやはり、一目顔を見るというのはお互いに安心するようです。新規入所の方などは尚更のことと感じています。

事例 30 社会福祉法人 中心会 えびな北高齢者施設

中和 伸弘 様

神奈川県海老名市上今泉

コロナ渦でも、楽しめる行事を行う！

2020年度の行事は、2019年度中に検討し、日常的なレクリエーションの他に、ご利用者様だけでなく、ご家族様、地域の方々とも交流できるようなイベントを計画していました。中には、当施設が開設してから続けている「えびな北 夏祭り」もあり、和太鼓演奏や各種模擬店、厚木の鮎まつりの花火を楽しめるという、夏の恒例行事として、ご利用者様のみならず、上今泉地区の皆様が毎年心待ちにしている行事もありました。

ところが、2020年2月頃より、新型コロナウイルスの猛威が止まることがなく、私たちの日常が一変してしまいました。面会制限の他、ご家族様やボランティア様の立ち入りを控えて頂くなど、「制限」をかける状況となってしまいました。

そのような制限のある中、どれだけご利用者様に、心が温かくなり、思い出に残る時間を過ごして頂くかが課題となりました。そこで私たちは、これをマイナスと捉えるのではなく、ご利用者様と職員が一对一で過ごせる、これまでにない良い機会だと捉えるよう発想の転換を行いました。年間通じて一番のビックイベントである「えびな北 夏祭り」を、成功させるため、介護職、栄養士、生活相談員など、多職種で実行委員会を立ち上げ、お互いに意見を出し合うことを始めました。

例年はボランティアさんをお呼びして、圧巻のステージ演奏をお願いしていましたが、今年はそういった時間が無い分、スイカ割や、手持ちの花火を。また、模擬店は例年地域の方に向けての物でもありましたが、今年は、ご利用者様が食べやすく美味しいかどうかということだけに注意を払いました。また、普段はご利用者様（施設の入居者）の対応をしない、ケアマネジャーや地域包括支援センターの職員も出勤し、出来る限りご利用者様を安全にご案内できるようにしました。

職員からも「今年のご利用者様だけに力を注いだ」という実感がわき、ご利用者様の表情や言葉からも、今年度の行事運営が誤りではなく、喜んでいただけたということが分りました。夏祭り以降も、「敬老の集い」といった行事でこの方針を取り、穏やかで丁寧な関わりをさせて頂くことができたと考えております。

このように、「制限」がある中で、どれだけ喜んでいただけるのか楽しんで頂けるのか、を今後も追求していく所存です。



事例 31 デイサービス BALENA

新田 智裕 様

神奈川県横浜市青葉区元石川町

食とリハビリで元気になる（地域密着型）デイサービスを運営しています。

BALENA には「カフェ」と「スタジオ」があり、理学療法士監修の椅子レッスンや床にマットを引いての床レッスン（ADL 訓練や機能訓練）を実施しています。

コロナ禍において、オムニチャンネルでの機能訓練を確立し、利用者の皆様からご好評頂いております。

また、腕利きの管理栄養士が、市場で直接仕入れた素材を、こだわりの BALENA 飯が、運動の効果をより高めてくれています。

感染対策は、標準予防策 + 免疫力の強化！食と運動で皆様の健康増進と身体能力の改善に努めています。

▼動画 URL

<https://youtu.be/7GY-MhqT0hw>



事例 32 株式会社ツクイ ツクイ横浜中田

東 由樹子 様

神奈川県横浜市泉区中田北

コロナという時代に入り、お客様・お客様ご家族様に対しましては「お知らせ」としてご協力をお願いし現在でも、お客様・お客様ご家族様には感染された方はいらっしゃりません。お客様やお客様ご家族様からは、「こうしてるのよ・あ～してるよ」とお話しを頂いております。皆様、ご自身を守ることが他の人をも守るとの考えをお話しいただいております。

また営業所ではお客様にお願いとして、ご利用時の日々の検温の記録・マスク・まめな手洗い・手指消毒を実施頂いております。

職員に対しても3密・人込みを避けることや外での飲食についても避ける様に指導がありました。もちろん職員の健康観察・マスク・手指消毒・職員家族の情報の確認も実施しておりました。

その中で、ある職員の人生で一番大事なイベントでコロナ感染をしてしまった職員がおりました。

コロナ感染をした職員の発熱前には1日の勤務もあり保健所と確認を行い、職員とお客様のマスクが徹底できていたことにより濃厚接触者はゼロと、保健所からはご判断いただきツクイ横浜中田デイサービスを休業することなくサービスを継続させて頂きました。

サービスを継続する中で、更に発熱者・体調不良がないかを二週間にわたり毎日、電話確認をさせて頂きました。

その中でお客様やお客様ご家族様、またケアマネージャー様のクレームも無く労いの言葉を頂いた時には感謝の気持ちと申し訳の無い気持ちで涙が溢れておりました。

また、休業せずにサービス継続したことでケアマネージャー様からも「大変にたすかります」と言うお言葉も聞こえておりました。

コロナ感染をした職員も無事に戻り、勤務再開もお客様・職員も温かく迎えていただいております。

最後になりますが、引き続きコロナの時代「WITH・AFTER」と続きますが更に3密は避けなければいけないところではありますが、お客様・お客様ご家族様・ケアマネージャー様・関係者様と多くの皆様と、「想い」「情報」「行動」の更なる心の3密を軸に継続させて頂きます。

事例 33 足柄リハビリテーションサービス 通所介護 ふらっと

川植 翼 様

神奈川県小田原市堀之内

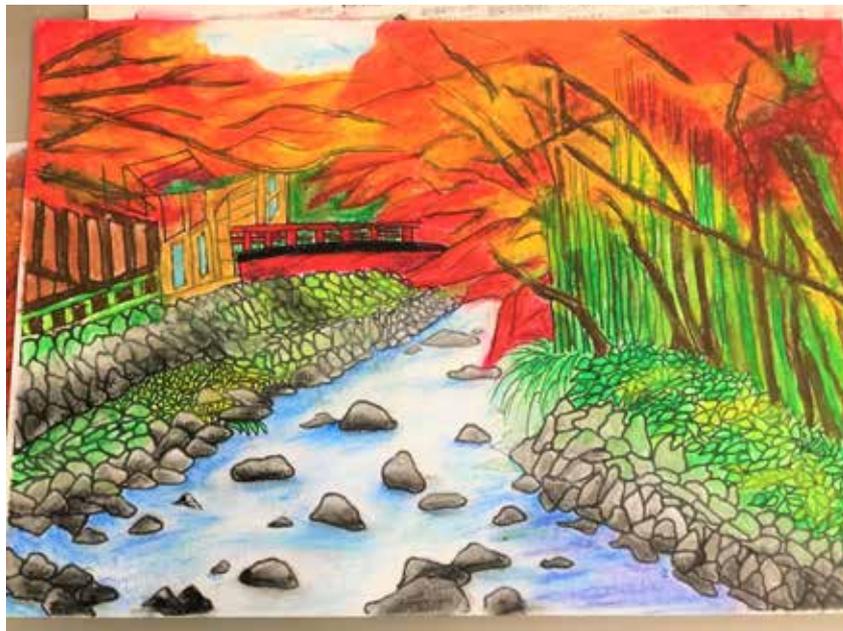
私どもの事業所では、「塗り絵」に力を入れています。

ただし、塗り絵は塗り絵でも「大人の塗り絵」です。

大人の塗り絵では、色の重ね方、濃淡の付け方、ぼかし方などを考えながら、様々な技法を駆使して本格的に行います。

塗り絵と聞くと始めは幼稚にとれてしまうこともあり、はじめは半信半疑で始めた利用者様も今ではどっぷりとは

まり、参加者も増えて、画材などを集めてクラブ活動にまで発展しました。さらに今年は「大人の塗り絵コンテスト」に出展することを目標にたくさんの方が取り組まれています。



目標を持って取り組むことは、活力につながります。

コロナ禍でも生き生きと作業に取り組まれている姿はすごく輝いて見えます。

このような取り組みを今後さらに増やしていきたいと思います。

事例 34 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷藤沢ウェルフェアタウン

能登谷 和紀 様

神奈川県藤沢市大庭

コロナの影響で施設利用者の方々は、3密を避ける為全ての生活面が自粛で、食事も横並びで会話も自粛、余暇のサークル活動も自粛、などを余儀なくされる状況になった。利用者の方々が、少しでも明るく過ごし遣り甲斐がある事が何か出来ないかと生活サービス課などスタッフがいろいろ模索の中、折り鶴だったら、他の方との接触しなくとも一人で部屋でも、出来るという案が出された。

そこで出てきたのは折り鶴で大きな富士山、湘南の風景を作り上げようという事になりました。楽しく協力し合いながら作るという意図で、各自にはお部屋で折り鶴をいくつか組み合わせた子部品を作ってもらい、3密を避ける為最終組み立てだけはスタッフが行いました。各自は自分の分担が判り、どこにその子部品が使われるかを楽しみにしながら折り紙を楽しみました。

約 100 人の方が参加して約 1 か月で作りあげる事が出来ました。

ロビーの壁に大きな富士山、湘南の風景が展示された時は 参加した方は3密に配慮しながらも、ワァーと声をあげて駆け寄り、嬉しそうに眺め ながら「私はここを作ったのよ」とスタッフに声を掛ける姿が幾度も見られました。



※横 2m 縦 1.3m の大きさ

事例 35 株式会社 ARCE UP Life

山 健斗 様

神奈川県相模原市南区栄町

今回はスマートフォンやパソコンなどが使えない高齢者でも、オンライン環境で効果的なリハビリが行えた事例をご紹介します。

弊社のデイサービスではコロナ禍の影響を受けて、4～6月の段階で利用者様の50%が自主的に利用を自粛されていました。

ご利用者様の健康第一なので自粛は当然の判断ですが、

コロナを恐れるあまりに外出機会が激減し、運動不足による生活習慣病やうつ病などの健康被害を懸念しておりました。

そこで、スタッフ全員が理学療法士・作業療法士というリハビリの専門家が多いデイサービスである強みを活かして、自粛されている利用者様一人ひとりに合わせた自宅でできる運動メニューを作成しました。

また、2週間おきに電話にて連絡を行い健康相談や自主練習の進捗状況を聴取し、状態に合わせたメニューの変更などを行いました。

それにより、自粛者全員に運動能力の低下は無く、むしろ自粛前よりも歩きやすさや痛みの軽減を喜ぶ方が多くなっていました。

当デイサービスを利用している9割の方はスマートフォンやパソコンの操作に自信が無く、ビデオ電話等を用いたオンライン環境が整っていないことがほとんどでした。そこで、リハビリ専門職による運動メニューの作成と定期的な電話での健康相談などを行い、オンライン上での健康サポートを行いました。

今回のポイントとしては、

- ① 普段の利用時から利用者様の運動機能を評価していること
- ② 高齢者でも自主練習として行える難易度の運動であること
- ③ 相談時に相手の状態を聞いてメニューを変更できること

以上の3つが挙げられます。

オンライン上でも適切に対応ができれば今回のように運動機能を維持・向上させることができることが示唆されました。

介護・福祉領域でも、コロナ禍において利用者を支援できる体制が整えられるように、専門職との連携を活かせられればと思います。

事例 36 障がい理解啓発活動グループ Kokua (コクア)

伊藤 里香 様

神奈川県横浜市南区大岡

「あたらしいおやくそくセブン」

私どもは、横浜市南区の障がい児者の将来を考える会 泉の会の有志で活動する「障がい理解啓発グループ Kokua(コクア)」です。

私どもで新型コロナウイルス感染拡大防止の為にに行った対策の紹介をします。

「新型コロナウイルス」については、自粛など生活が急に変わったりしたことで、障がいのある人たちも心が不安定になりました。

学校や作業所などが再開した頃に所属する「泉の会」の会員から、「怖がって出かけられない」逆に「何にも分かっていないから1人では外出させられない」「そこいらへんさわる」と聞かれるように。

親も悩みながら対応していることが分かりました。

私たちは新しい生活様式に慣れていかなくてもなりません。

安心して新しい生活に入ってもらうため、一つを見て「これを守っていただければ安全に生活できる」と、知的障がいのある人たちに理解しやすいものが欲しくて、Kokua(コクア)では「おやくそくセブン」というシートを作りました。

イラストを入れたり、約束を守ることが好きな彼らに寄り添うタイトルにしたり工夫しました。

このシートをご家庭や作業所に掲示してもらい、毎日「お約束守れているかな？」と、みんなで確認して、この内容が生活シーンに浸透していく事が目的です。

また、むやみに怖がらず約束さえ守れば大丈夫って、安心もして欲しいと思っています。理由なども説明したら、正しく知って安心につながると思い、紙芝居・冊子・動画などにも展開しました。

発表してみると、障がいは関係なく誰にでも分かりやすいと、たくさんの方に言っていただきました。

分かりやすく工夫することが、障がいに限らず、色々な方々の助けになると実感できた出来事でした。

現在は、シートは南区社協のホームページからダウンロードできます。

<http://www.minami-shakyo.jp/minaminews/details.php?id=337>

冊子にする協力は2ヶ所からいただきました。

動画も南区役所のモニターで流してくださっています。

私たちからの発信ということで、障がいのある人たちもキチンと学んでコロナ対策を頑張っていることも伝わって欲しいと思っています。

今後は、シートと冊子、動画、どのような形でもこの「おやくそくセブン」が広がり、安心な世の中になるのを願っています。

With コロナの新生活のために
**知的障がいの人向けの
お約束シートを作りました！**



新しい生活を安全に楽しく過ごすために・・・

コロナ を **やっつける!** ための

7
セブン

あたらしい おやくそく

コロナウィルス対策をしながらの新しい生活が始まっている昨今ですが、ソーシャルディスタンスを身に付けたり、暗黙の了解が難しい知的障がいのある人に、毎日あたりまえにイキイキと過ごして欲しいという気持ちから、「障がい理解啓発グループ Kokua（コクア）」では、守るべき約束事を7つにしぼり、シートにしてみました。イラストを入れご本人が理解しやすい内容になっています。

イラストは、泉の会会員の息子さんが、みんなのためにと描いてくれました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

シートをご希望の方はデータでのご提供が可能です。

下記までお問い合わせください。

連絡先 * sato@mfh-mutsumi.com

南区障がい児者団体連絡会事務局担当 佐藤



より理解が深まるようにと、紙芝居にも展開しています。
お問い合わせください。

障がい児者の将来を考える会

泉の会

障がい理解啓発グループ Kokua（コクア）



コロナを やっつける! ための

あたらしい おやくそく

7 セブン

おさんぽ 中や、
電車・バスの中では



学校や
お仕事先でも



お家でも...



① マスクをつける



おはなも
かくす

② ひと 少し はなれる

少し はなれる



「まえならえ」を
して、ぶつからない
くらい

③ お話は、 ちいさい声です



④ いろいろな所を さわらない

コロナに きをつけて



⑤ 手洗い・うがいをする



⑥ 熱をはかる



⑦ よく寝る

(10時にはおふとんへ)



障がい児者の将来を考える会

泉の会

障がい理解啓発グループ Kokua (コクア)



事例 37 社会福祉法人 泉心会 高齢者総合支援センター泉心荘

来栖 一郎 様

神奈川県伊勢原市三ノ宮

【取り組み事例の成功例】

行事やレクリエーションはほぼ中止にする必要がありましたが、敬老会だけは何とか開催したいと思い、通常実施している式典（三密を避ける）やバイキング食（飛沫感染防止）は取りやめる代わりに、施設長と数名の職員が各フロアをまわりました。100歳以上の方などには個別にお祝いの品を渡し、写真撮影もしました。通常はご家族やご利用者が一同に集まってお祝いする「敬老会」ですが、今回はご利用者が生活している場所に訪問し、同じフロアに住むご利用者も一緒になって喜べる時間をつくることができたため、より家庭的な（個別性の高い）お祝いをする事ができたと感じています。

ご家族の面会については、窓ガラス越しやオンラインによる面会を実施していますが、それだけではご利用者が生活している様子が伝わりにくいため、毎月ご家族宛に郵送する封筒の中に、ご利用者自身が書いたお手紙や、顔写真とともに職員が普段のご様子を記入した手紙を入れてお送りしています。

この方法は、新型コロナウイルスと関係なく、なかなか施設に来ることが難しいご家族（ご高齢や遠方にお住まいなど）から好評をいただいています。

【取り組み事例の今後の課題】

ご利用者やご家族の気持ちを考えると、敬老会のような形式的なお祝いではなく「家族」として心から祝えるような工夫が必要だと思っています。

例えば、誕生日はひとときでもご自宅で過ごすとか、ご家族と一緒に買い物や旅行（日帰りや足湯）に出かけるなど、そこには職員も「家族」として付き添い、同じ時間が共有できるとご利用者やご家族との信頼関係も深まると思います。

ご本人が望む「個」を重視した取り組みができると満足が得られるだけでなく、生きがいにもつながります。

また、職員が行う介護の目的や理由も明確になることで、職員がやりがいを持てるようにしたいです。



事例 38 リハビリタイムズ駒岡

上西 和樹 様

神奈川県横浜市鶴見区駒岡

今回の新型コロナウイルス感染拡大における介護保険分野への影響は大きく、感染防止の観点から弊社サービスを一時的に自粛をする利用者様が多くいらっしゃいました。

(リハビリタイムズ 4 事業所で 76 名 全体の約 2 割)

利用者様にとって、普段利用しているサービスを利用しなくなってしまうことは、言い換えると「社会」との繋がりが 1 つ切れるということだと解釈しています。

社会でのコミュニティが 1 つなくなってしまうことで、必然的に利用者様の活動性は落ち、「ココロ」と「カラダ」の両方に悪影響が出てしまうことが想定されます。

この厳しい状況の中、弊社では「利用者様の生活を止めない事」「繋がりを切らない事」という 2 つの大テーマを掲げ、利用者様への支援をスタッフ全員で取り組んできました。

具体的取り組みとしては、以下の 4 つになります。

- ①自粛利用者様へ電話での体調確認 (血圧、脈拍、食事量、入浴回数等の確認)
- ②希望者様へ臨時訪問での運動・体操指導
- ③オンラインでの運動・体操指導
- ④体操 DVD 配布

取り組みを行う中で重要だと考えたことは、利用者様に「社会と繋がっているな」「孤独ではないんだな」という感覚を持ってもらうことです。

臨時訪問での運動指導やご自身での体操により体力を維持していくのはもちろん、臨時訪問や自主的な体操を受け付けない方へは週 1 回の電話の中で、ご本人の近況を聞き、コミュニケーションを取る機会を繋いでいくことが「社会に居場所がある」と感じとれるポイントになるのではないかと考えました。

これらの「繋がりを切らない」取り組みの結果、現在は、9 割程度の利用者様が利用を再開しています。

また、一時的な自粛を経て利用を再開した利用者様から、自粛期間中に感じたことで多く聞かれた言葉としては、

- 「1 か月来ないと一気に体力が落ちてしまう。」
 - 「家から出ないと気持ちが落ち込んでいってしまう。」
 - 「やっぱりリハビリは大切」
 - 「みんなの顔をみると安心する」
- という言葉でした。

利用者様の声からも、改めて「コミュニティ」の重要性を感じれた瞬間でした。また、スタッフに関するお休みされる利用者様との「繋がり」を通して、心情を理解していく事や声掛け方法を見直す良いきっかけとなったと感じております。

リハビリタイムズでは、今後も利用者様の生活を止めずに、社会との繋がりを維持できるよう支援を継続していきます。



事例 39 グループホーム水車の里

高田 朱美 様

神奈川県横浜市緑区新治町

活動的な入居者さんの多いグループホーム水車の里は地域の防犯パトロールや町内一斉清掃など地域の方との活動のほか、日々の買い物はもちろんの事、日帰り旅行や映画鑑賞、居酒屋での飲み会など多くの楽しみをホーム以外の環境で行って来ました。

そんな中、管理者である私は新型コロナウイルスへの感染防止対策に追われ、気づけば入居者さんの活動は日課である毎日の散歩のみとなっていました。

入居者さん達がおこなっている「おばあちゃんちのアイスクリーム（アイスクリーム屋）」も外部への販売は休業を余儀なくされ、少しずつ入居者さんにストレスやあきらめのような感情が見られ始めました。

戦争経験者である入居者さんにとっては空から爆弾が降ってくることと比べれば、新型コロナウイルスはそんなに恐怖を感じる対象ではなかったことも要因の一つだったようで、改めて入居者さんの頼もしさを実感する機会ともなりました。

そんな時、一人の入居者さんが「このままだとコロナが終息する前に寿命がきてしまう」とつぶやきました。ハッとしました。

「ただ自粛し、感染を防止さえできていればよいのだろうか？」

「コロナ禍でも行えることがあるのではないか」

「認知症である入居者さんがより良い人生を歩めるよう、私たち介護職は多くのアイデア、選択肢を入居者さんに提供し、共にこれからを考えるべきなのではないだろうか」と思いました。

水車の里がはじめの一步としておこなった活動も入居者さんのつぶやきでした。区内の小学生がコロナウイルスに感染したことが分かった時の事です。

「かわいそうにね。きっとその子も親御さんも子供たちを守らなければならない学校の先生たちも、心を痛めながら頑張っているのでしょうね」

この入居者さんの人を思いやる気持ちをコロナ禍の活動に活かさないかと考え、最初の一步は不要なタオルで雑巾をつくり、感染者の出た小学校へ寄付することとなりました。

自粛生活のため時間はあります。そしてやるべきことが明確になると皆さん行動が早いです。そしてこの活動は自粛中にも関わらず、新たな人とのつながりをもたらしてくれました。

まだまださまざまな取組みを入居者さんと共に計画しています。

今後も「出来ない理由探し」ではなく、「何が出来るのか」「実践するためにはどうすればよいのか」を入居者さんと共に考えていきたいと思ひます。



事例 40 株式会社ツクイ ツクイ伊勢原高森グループホーム

亀井 秀心 様

神奈川県伊勢原市高森

私たちツクイ伊勢原高森グループホームではコロナ禍の中思うように面会も難しくなりましたがご家族とご利用者の大切な時間が持てるように電話でお話する時間を設けました。

ホームに良く面会に来られていたご家族ですがお顔もみる事が出来なくなり非常に心配されていましたが電話越しに元気そうな声を聴く事が出来き「安心した・嬉しかった」と満足そうにおっしゃって下さいました。

電話が難しいご利用者にはお手紙を書いて頂き文通も始めました。また今までは音楽教室や書道教室等、外部講師を招いてご利用者の皆様に有意義な時間を過ごして頂いていましたがその機会も無くなってしまいました。

私たちが教室を作ろう。そう考え私たちは「マスク作り教室」と「季節のお菓子教室」を作り、ご利用者と一緒にマスクやお菓子も作りました。

こう考えるとコロナ禍でもできる事は沢山あります。

これからも感染対策に留意しながらもご利用者と楽しく「私たちらしく」出来る事をみつけていきたいです。

事例 41 社会福祉法人 心の会 さくらの里

馬賀 清子 様

横須賀市小矢部

デイサービスセンターにおいて、定員を35名から30名に縮小し、1人当たりのスペースを確保した上で、従来の4人掛けテーブルを破棄し、100cm×45cmの1人用テーブル30脚を購入。ご高齢者様どうしの間隔を2mとれる体制を作りました。学校の教室のように、ご高齢者様が一人一テーブルで、同じ方向を向いて座るのを基本としています。皆さんにマスクを着用して頂いた上で、ソーシャルディスタンスをとり、さらに向かい合って座ることがないので、飛沫感染のリスクを軽減できていると思っています。

弊施設が得意としていた外出行事は全面休止。歌の様な大声を上げるレクや、接触したり密集したりするような運動レクやゲームも廃止。代わりにスクリーンに映す写真を使ったクイズや映画上映会、ご高齢者様が興味があることをプリントで学ぶ学習レク、値段の異なるプリン等を食べ比べて値段をあてる試食会レク、一人一人ばらばらで行う運動レク等を創設しました。

一人一テーブルなので、ある一つのレクに参加するご高齢者様のグループが集まって自由に体制を作ることができ、新しいアクティビティの可能性を見出しています。さらに、レクの内容としても、従来より知的な楽しみを見いだせるレクを開拓できました。

また従来より力を入れていた手工芸も、作業中にご自分のテーブルに道具や材料を広げたままお風呂に行くなどができるようになり、ご自分専用のテーブルがあることで、行動の自由度が増しています。

送迎では、15人乗りの大型車両と、7人乗り大きなリフト車を手放し、軽自動車を中心に、乗用車タイプのみで、できるだけ少人数で送迎する体制を確立しました。もちろんご高齢者様には朝の検温と、発熱時の事前連絡をお願いし、さらに迎えの時の職員による検温を実施しています。

感染予防型デイサービスとして、新しい過ごし方、レクリエーションを見出し、デイサービスとして進化しつつあると思っています。



事例 42 株式会社マエカワケアサービス

大和 由幸 様

神奈川県横須賀市佐原

【電話での口腔ケア】

お休みされている利用者様に電話で体調の確認と共に日々の生活の様子をお伺いしていましたが、このお電話でも何か出来ないかと思い、受話器越しに口腔機能が落ちないような「お口の体操」を取り入れました。

職員と1対1で大きな声を出したり、早口言葉などオリジナルの内容を作成し、お電話させて頂いた利用者様に提供致しました。

コロナ休みから復帰された一人暮らしの利用者様からからは、電話が来るのが楽しみだった。声を出すととても気持ち良かったというお声を頂きました。

事例 43 株式会社マエカワケアサービス

大和 由幸 様

神奈川県横須賀市佐原

【電話でのリハビリ訓練】

お休みされている利用者様に対してお電話をして体調の確認とご様子をお伺いした際に、電話越しに職員の掛け声に合わせて運動を行いました。

電話をする職員を毎回変えて、事業所一丸となって関わりました。

ご利用者様の自宅内のインターネット環境や設定などはなかなか整っている方は多くないため、すぐにできることを考えて実施致しました。

ご利用者様からは、沢山の社員の方から電話をもらい嬉しかった。個別に運動指導してもらえてよかった。早く復帰したかったというお声を頂きました。

事例 44 株式会社マエカワケアサービス

大和 由幸 様

神奈川県横須賀市佐原

【体操手帳の定期配布】

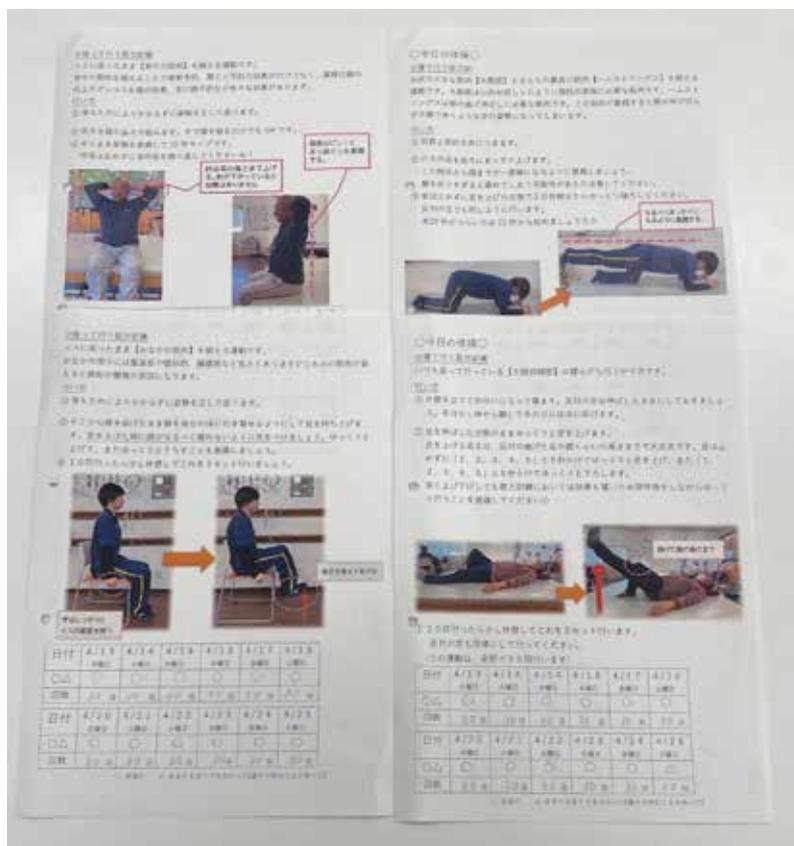
お休みが続く方に対して何か出来ないかと考え、利用者様一人一人に合わせた自宅で出来る体操をまとめたオリジナルの体操手帳を作成いたしました。

内容はベッドに寝ている時、椅子に座っているときなど様々なシーンを想定し、すぐに出来るものをまとめ、デイのイメージも思い出して頂けるようモデルは事業所のスタッフを使いました。

また、全員同じ運動ではなく、リハデイとしてその方の今の状態（生活環境や居宅状況）などを把握したうえで運動の種類を構成し、それを記録できる用紙を付けて配布しました。

お会いすることも出来ない方が多かったため、ご自宅のポストに投函し、また新しいものを投函する際に前回のものを受け取るというやり方で行いました。

毎日しっかりと取り組んでくださった方もいらっしゃいました。



事例 45 株式会社マエカワケアサービス

大和 由幸 様

神奈川県横須賀市佐原

【YouTube、SNS の活用】

お休みをされている方に対して事業所の日々の様子をアップすることにより、安心してデイに復帰して頂けるような取り組みを様々行いました。

YouTube では事業所の様子を毎日アップしたり、事業所の紹介や運動器具の説明、オリジナルの脳トレ動画や体操動画を作成して公開しました。

SNS では各事業所の取り組みを中心に感染症対策の様子なども掲載しました。

事例 46 株式会社ツクイ ツクイ三浦グループホーム

島山 宇藍 様

神奈川県三浦市三崎町諸磯

新型コロナウイルスが流行し、三密にならない様、大々的なイベントが出来ない中、認知症になりグループホームに入り施設内の生活が多く、外出が出来ない、楽しい事が無い、季節を感じる事が出来ないにならない様に、少しでも季節を感じて頂けるようにイベントを工夫して行いました。

桜祭りでは、お花見をしに行っておりましたが、3階に桜の写真や造花をお客様と飾り、屋上で外の風にあたりお花見弁当を食べました。本物の桜を見れませんでした。飾りを見て喜ばれ、花見の話をしたり、季節の話がされていました。

又、毎年恒例のエントランスの夏祭りも行えず、お客様もお祭りを楽しみにさせている人も多く、少しでも夏を感じて頂きたいと思い、3階に花火の写真や電飾を飾り、今まではビュッフェ形式でしたが注文形式で、注文票を作り、お客様に食べたいものを選んでもらい食べて頂きました。

イベント中の手すりやテーブルのアルコール消毒やエレベーターの消毒、人数制限を行い、3階の換気の徹底し、三密を避けイベントを行いました。

今後の課題は、新型コロナウイルスがいつまで続くか分からず、お客様も家族も不安があります。

認知症なので、家族に会えない不安、外出できないストレスも多くあります。

面会も十分に出来ない為、家族がイベントにも参加していたが参加も出来ない、家族にこまめに連絡しお客様の様子を報告してはいますが、お客様は会えずにいるので、オンライン、電話等使用し、顔を合わせる場を増やし安心して生活を送れる環境を作りたいです。

又、買い物行きたいお客様、散歩、ユニット間の出入りが行えない今、日中の活動でマンネリ化せず、充実した日を送れるように日々の生活の工夫をしていかなければならないと思います。ユニットでのレクリエーション等今以上に取り入れていきたいです。

認知症状の進行を遅らせるためにも、季節を感じたり、地域との関わりで三浦ならではの祭りを目で見て、その場の雰囲気を感じ楽しむ、その瞬間のお客様の笑顔を大切にしてきました。テレビや音楽では感じれない雰囲気、外出が難しい今、どうしたらいいのか悩むものがあります。

新型コロナウイルスの予防も徹底し行いながらも、ケアの仕方を工夫し、季節を感じられるように食事を変えてみたり、お客様の笑顔が減らない様にケアやイベントを考えていきたいです。

事例 47 株式会社ツクイ ツクイ横須賀光風台グループホーム

加藤 恵理佳 様

神奈川県横須賀市光風台

ガウンは着る機会が無いいため、脱ぎ方などを個々に研修を行うなどしました。

今までは研修も行っていましたが、密を避ける為に全職員ではなく、個々に行ったり、少人数で密をさけて行っています。

ホームでの取り組みとしては、毎年恒例の行事も密になってしまう、外出出来ない等あった為行えなかったのですが季節を感じて頂ける様にホームにていちご狩りや、スイカ割等行いました。

キッチンカーをホームに呼び密に気を付けながら外で食事をしたところ、お客様にとっても喜んで頂けました。

今後も感染には十分に注意をして、季節を感じたり、コロナ禍でも楽しんで頂けるように工夫をしていきたいと思えます。

事例 48 社会福祉法人 富士白苑大磯コーポ

塚原 隆弘 様

神奈川県中郡大磯町東町

「美味しい海苔巻きが食べたい」

富士白苑大磯コーポでは、入居者が元気になって頂くための取り組みとして、春と秋に「個別外出行事」を行っていました。「〇〇に行きたい」「□□が食べたい」など個別の要望を伺い、外出をして楽しんで頂き、次の外出へ向け意欲を持っていただくための取り組みです。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、外出を控え、リスクを避けなければなりません。それでも入居者の想いを、希望を形にして満足をして頂きたいと考えておりました。

そんな中、普段はあまり希望の聞かれない A 様から「美味しい海苔を使ったかんぴょう巻きが食べたい」と希望があったのです。感染症対策のため外食を避けねばならず、出前で美味しいお店はないかと探していましたが、厨房の職員が A 様のために目の前で調理をして提供するのはいかがでしょうか、という案が出ました。

企画の実施当日。A 様の居室へ食材が運ばれ、A 様は椅子に座りながら、調理員が海苔巻きを作る工程を見ておられました。そして、出来たばかりのかんぴょう巻きをそのまま提供すると、小食の A 様は普段よりも箸が進み、「とても美味しいねえ」と、満面の笑みを浮かべながら召し上がられたのです。

入居者の居室で調理を行い提供する、という対応はこれまでにはありませんでした。新型コロナウイルスにより、様々な制限がかかった今だからこそ出来る何かを探した結果です。コロナだから出来ないと考えるのではなく、希望を形にするための代替案を常に模索し、満足へ繋げることで入居者に元気になって頂けるように、これからも取り組んでまいります。



事例 49 社会福祉法人馬島福祉会 恒春園地域包括支援センター

稲生 美佐子 様

神奈川県川崎市川崎区小川町



コロナ渦の中、自粛のため地域の高齢者の集いの場がいたるところで閉鎖されています。

私たち包括支援センターではある地域にある大型マンションのCATVで介護予防の体操や認知症についてなど健康情報をお届けする番組を企画しました。

高齢者の場合ネットなどの情報につながる事が難しい方も多い中だれもが気軽に視聴できるテレビの役割は大きいと実感しました。

今後も感染予防対策の一環としてテレビなどのアクセスしやすい全世代型の

ツールを使って情報を発信していこうと思います。

事例 50 株式会社アスリート アイスタッフケアステーション大師

清水 成美 様

神奈川県川崎市川崎区大師町

弊社では、大型バスを利用して遠足に行ったり、演芸の方達に来て頂いたり、活発に活動をしてきました。コロナの影響で、それも出来なくなり、どうしたものかとスタッフと相談をしました。

そこで考えたのは、

- ① 買い物に行けない方達の為に、地元のセブンイレブンに定期的に来て頂いて、お買い物をする機会を持つ。
- ② 消毒だけではなく、メディカルアロマを使用し、予防をする。
- ③ 遠足の代わりに夏祭りを行う。この時は、スタッフも浴衣を着て、総勢 50 名程で縁日や、祭り太鼓、盆踊り、ガラポン抽選会を楽しみました。その時の昼食は、外食が出来ない状況でもある為、お店からの仕出し弁当のお食事を出しました。久しぶりのお刺身や鰻が入っておりいつも小食の方も完食されていました。日々外に出られないこともあり、この時は、皆さん明るく楽しまれていました。

そんな夏祭りでしたが、地元の新聞の方が取材に来て、紙面に大きく取り上げられたので、終わった後もニュースを見て、皆で良かったねと、また感動していました。そして次のイベントも楽しみして、元気に参加できるようマスク着用や手洗いを、積極的にするようになりました。

私はこの川崎大師という地元が大好きで、お年寄りだけではなく、地域の方達にも楽しんでもらえるような企画を実施しています。それもこのコロナ禍で色々なイベントが中止になってしまいました。

そこで何か出来ないかと考えて、デイの建物を季節ごとに飾り付け、近所の方に楽しんでもらっています。ちなみに今はハロウィンなので、窓ガラスは魔女やお化け等の切絵で飾っています。

さらには子犬や子猫がしゃべっているような、コロナの応援メッセージを掲示板に沢山貼って、散歩途中の方にも楽しんで頂いています。

近くに大きな公園があり、保育園のお散歩コースになっています。このお楽しみ掲示板は、次は何が張ってあるのかなという話題になっているそうです。

そんな子供たちをデイに来ているお年寄り達が見て、手を振ったり声をかけたりしています。それだけで、子供も大人もお年寄りも笑顔になっています。

そんな地域作りを楽しみながらコロナを乗り越えようと思っています。



事例 51 社会福祉法人 敬愛 けいあいの郷 緑園

小宮 正次 様

神奈川県横浜市泉区岡津町

前提として、私たちの仕事は感染リスクを恐れて、外部から隔離することではなく、「日常生活を支援すること」との思いがあります。コロナ禍においても、ご家族様との接点を模索しながら実施してきた面会方法を報告します。

2月 面会制限を30分以内・家族のみとしましたが、3日後、全面的に面会禁止としました。

4月 面会を一旦再開しますが感染が全国的に拡大し4月12日に緊急事態宣言が発令された事により再度面会禁止にしました。

5月 このコロナ禍でも、どうにか面会が出来ないだろうか考えた結果が『ZOOM面会』の実施職員も手探りの中、各家庭でのパソコン環境も異なり全ての方に理解していただくことは難しいと考え、自宅と施設内B1ロビーでも行えるようにしました。

7月 外のエントランスでの直接面会開始にあたり、面会場所にパーテーション設置し、面会場所には「人数や時間の制限」等の注意点を掲示、一組ごとに面会終了後の消毒を行いました。

看護職員も入居者様の誘導を行い、近況の報告兼ねて面会にも立ち合わせて頂きました。

- ・ 直接面会は、お互いに笑顔を浮かべる様子や涙を流して再開を喜ばれる姿を見ることが出来ました。中には、耳の遠い母親に何とか声が届かないかとの思いから、自作した糸電話をお持ちになった方もいらっしゃいました。

8月 暑さの為キャンセルされる方が出てきたため、サーキュレーターを設置しました。

- ・ 看取り対応の方のご家族様には、悔いのない時間を過ごしてもらいたいとの思いから15分の居室での面会を開始しました。ご家族からは「スタッフの皆様の献身的な介護により穏やかに最期を迎えることが出来た」との感謝のお言葉を頂戴しました。

10月 寒さ対策の為施設内の面会を試み、試行錯誤の結果、現在はエントランスでの面会を実施しています。

《今後》

先の見えないこの状況ですが、“新型コロナウイルス”とはまだ共存していかなければなりません。「私たちに出来ること」「私たちだから出来ること」をこれからも考え、今後も、自分も入居者様も安心して暮らせる環境を多職種連携で作っていきたいと思います。



事例 52 特定非営利活動法人 UDE JAPAN

北村 仁 様

神奈川県平塚市袖ヶ浜

Universal Design For Entertainment : UDE の概念を掲げ、ユニバーサルデザイン社会の実現を、エンターテインメントの視点から支援をしている NPO 法人です。

代表の北村仁は、手話とダンスで世界をつなぐ、をビジョンに、ストリートダンスに手話を取り入れた UD ダンスで、聴こえる、聴こえない、障害の有無に関わらずエンターテインメントを楽しめる社会環境を目指し、法人を立ち上げました。

また、UD ダンスのレッスンは、応用行動分析の理論をベースに行われ、発達障害、知的障害などがある方でも、その方の「やりたい!」「できた!」の気持ち、達成感を大切にしています。そのため、自治体の協力を得て、中学校や放課後等デイサービスの事業所にも出張レッスンを行っております。年齢、障害の有無関係なく楽しめる曲選びや、運動発達に課題のある方でも楽しめるよう、着席したままでも踊れる振り付けの提案など、障害のあるなしに関わらず楽しめる環境を第一に考えています。また、発達に偏りがあるために、習い事を断られてしまうお子さんも多くいらっしゃいます。障害の有無、年齢問わず、気持ちに寄り添って、UD ダンスの世界を体験してもらいたいなと思っています。

そんな中、新型コロナウイルスの感染拡大は、エンターテインメント業界にも大きな影響を与えました。そこで、自宅にいながら UD ダンスを世界に広げ、手話の初心者、経験者問わず安心して楽しめる環境を提供したいとの思いから、「手話とダンスで世界をつなぐオンライン UD スクール」を開校いたしました。

外出自粛が呼び掛けられる中、自宅にいながらレッスンに参加をしたり、スクールメンバーで動画を撮影し、一つの作品を作り上げるなど、感染リスクを減らしながらも UD ダンスの文化を広げていく試みとして始めました。

オンラインスクールは、現在では神奈川県のみならず日本中からご参加頂いており、外出が少しずつ緩和をされてからは、少人数で 3 密を避けながら、実際に会ってレッスンを行う、ワークショップツアーも徐々に開催しております。

新型コロナウイルス感染拡大は危機的な状況でしたが、それを一つのきっかけに、世界中に UDE の考え方を広げていく、一つの在り方を見出すことができました。

コロナ渦の影響で得られた賛同してくれている仲間と共に、これからも UDE の文化を広げていきます。

事例 53 一般社団法人愛楽園 あい訪問看護・リハビリステーション

矢作 房 様

神奈川県横浜市磯子区丸山

事業所内での新型コロナ感染対策

1. 毎朝、の検温を徹底し記録する。事業所内は手洗い、うがい、マスク着用。
2. 看護師は直行直帰を前提として事業所に集合する機会を減らす。事業所内にいる時は2 m以上間隔をあけて訪問時間まで待機し、対面での会話を避ける。
3. 事務所内は毎日清掃し、清掃時にはアルコールで消毒している。
4. 常に通気、定期換気を行い、トイレなど大勢が接触する場所は各自使用後にアルコールで清掃する。
5. 体調不良者が発生した場合は、無理せずに休むようシフトを調整している。

訪問時の新型コロナ感染対策

1. 利用者宅訪問時、手洗い、マスク着用。援助時はビニルエプロン、手袋を装着し、利用者にもマスク着用を依頼している。
2. 発熱、嘔吐、下痢など疑わしい症状のある利用者には感染対策用ガウン、ゴーグル、フェイスシールド等を使用し完全防御策を講じている。
3. 感染症対応専任看護師を決めて対応し利用者に正しい情報を提供している。
4. 発熱、嘔吐、下痢のある患者は最後に回すなど訪問シフトを調整している。
5. ユニフォームなどは自宅に持ち帰らず事業所内で洗濯、消毒をしている。

自宅での感染防止対策

1. 公共交通機関を利用する通勤者には手指用アルコールとマスクを支給している。
2. 勤務以外はなるべくステイホームを心がけ、家族の体調管理も怠らない。体調不良者の出た家庭の場合、感染法に順次休暇を取るよう勧めている。
3. 自宅内でも手洗い、うがい、入浴、清掃、栄養のある食事、十分な休息の勧めを注意喚起している。
4. 毎日の入浴洗髪、衣類交換洗濯をまめに行い、ウイルスを持ち込まない、付けない、増やさないを励行する。

コロナ感染拡大防止でみんな疲弊しました。中でも一番つらかったのは人と人のつながりが途切れてしまうことでした。

実際にコロナ鬱になる人も多く、直行直帰が増えると一人一人の利用者のちょっとした情報の共有が出来ずに看護師の心が沈んでいきます。

第1波が落ち着いても気を緩めることが出来ず、外で気晴らしすることもためられ、心が疲れていくのがわかりました。

その為当法人では愛楽園ランチだけは続けることにしました。看護師の健康をまもり、情報共有やつながりの中にある実感を得られる場所として、愚痴を吐き出し、活力の元となる手作りの暖かい食事をとり誰一人体調を崩すことなく訪問を続けられています。



事例 54 特定非営利活動法人「道」 就労継続支援B型事業所「道工房」

粟津 紅花（本名 絵里）様

神奈川県鎌倉市小町

道工房は、NPO 法人「道」が運営する精神障害福祉サービス事業所。障害の有無に関係ないアートをコミュニケーションツールとした社会参加を主眼に活動しています。

私は、書道塾を主宰しながら、道工房でデザイン書道の指導をしています。

もともと引きこもり生活を経験した人が多く、少しずつ社会復帰できる場所を作ってきましたが、コロナでまた逆戻りの心配が出てきました。

重くなった心を軽くする意味も込めて、コロナの収束を願い、未来への希望を、「デザイン書道」で表現してもらいました。

コロナ禍なので、工房も密を避け、1 テーブルに 1 人。道具も共有しないように細心の注意を払っての制作です。

中には、工房に来ることを心配して、自宅で作品を作る人もいますが、常に連携しています。

彼らは長年挫折を味わった分だけ、自分を救ってくれた言葉を持っています。作品には心打たれるものが多くありました。これらを多くの方に見ていただき、認めてもらう場があると彼らの力になると考え、多くの方に見ていただける作品展を計画しました。

そして、国際書道教育協会と一緒に、多くの方に声をかけて、コロナの収束を願い「書」に未来への希望を託すバトンリレーをしました。

この活動は思わぬ力になり、政界、スポーツ界、芸能界、などにも広がり、海外にも繋がりました。

- ・バトンリレーで大きく繋がった作品
- ・コロナでコンクールや作品展が中止になって活躍の場を失った子供達の作品
- ・道工房の皆の「デザイン書道」

これら 3 つの部門を合わせた作品展を 1 月に、みなとみらいのギャラリーで開催することになりました。

みなとみらいギャラリーは扉がなく天井が 22 メートルのオープンな場所で、密の心配がかなり低いと判断してこの場所を選びました。

もともと「道ギャラリー」に作品は展示していますが、今までにない多くの方の目に触れる作品展になるため、彼らも意欲的に、ぎりぎりまで、作品制作に打ち込んでいます。

コロナ禍でできないことが多い中、この状況だからできることを考え、彼らの力を発揮できる場が用意できたのではないかと考えています。



書道チャレンジ作品展
Calligraphy Challenge
コロナの収束を願い、書に未来への希望を託す。

2021.1.21 Thu ~ 24 Sun
11:00~19:00 (最終日は16:00まで)

みなとみらいギャラリーA
Minatomirai gallery A
(横浜みなとみらいクイーンズスクエア)

紅花書道塾学生展を併催いたします
ご高覧ご正購りますようお願い申し上げます

主催：紅花書道塾 主催者：栗津 紅花
Kouka calligraphy school

主催：国際書道教育協会 主催者：栗津 紅翔
International shodo Association

後援：横浜市 文化観光局・読売新聞横浜支局・神奈川新聞社
精霊文社・墨泉社・横浜書人会

事務局 横浜市南区蒔田町1018-15-315 045 (712) 3515

紅花公式HP 国際書道協会 公式HP



事例 55 社会福祉法人ともかわさき 相談交流ひらま

園部 由美 様

神奈川県川崎市中原区上平間

当事業所「相談交流ひらま」は、2020年4月に開所いたしました。

地域と、福祉を繋ぐための取り組みを行っております。

10月から始めたダンス教室は、部屋の換気量を計算し、収容できる人数の上限を設定。リアルで受講する前の検温、手指の消毒、更衣室では、ロッカーの使用禁止等のコロナ対策をした上で教室運営を行っております。

また、zoomによる遠隔地での参加が可能になったことから、勤務先から参加してくれることもあり、気軽に参加できるダンスとしてご利用いただいております。

会場では、zoomの画面をスクリーンに投影し一体感を持たせた運営を心がけています。

今後、外出の難しい障がいの方々にも気軽に参加していただけるよう、システムをさらに充実させ会場とzoomで繋がった先が隔たりなく活動できるよう心掛けていきたいと考えております。



▼動画 URL



事例 56 一般社団法人コ・クリエーション 地域まるごとケアステーション川崎

中野 由美子 様

神奈川県川崎市幸区北加瀬

「コロナ禍でも希望をみんなで創る地域に」

新型コロナウイルス感染症の広がりですべての生活が一変し、感染への不安やストレスを抱えた生活が何か月も続いています。私は「コロナの生活に疲れた」という声を耳にすることが度々あり、地域の方とできることを日々考えるようになりました。そしてコロナと共存し生活するには、希望や癒しが必要であると考えました。生活の中から希望や癒しだけでなく、辛さや悲しみ、楽しさ等もアートで自由に表現できるようにしたいと考えました。これまで私達が実践してきた取り組みの一部を紹介します。

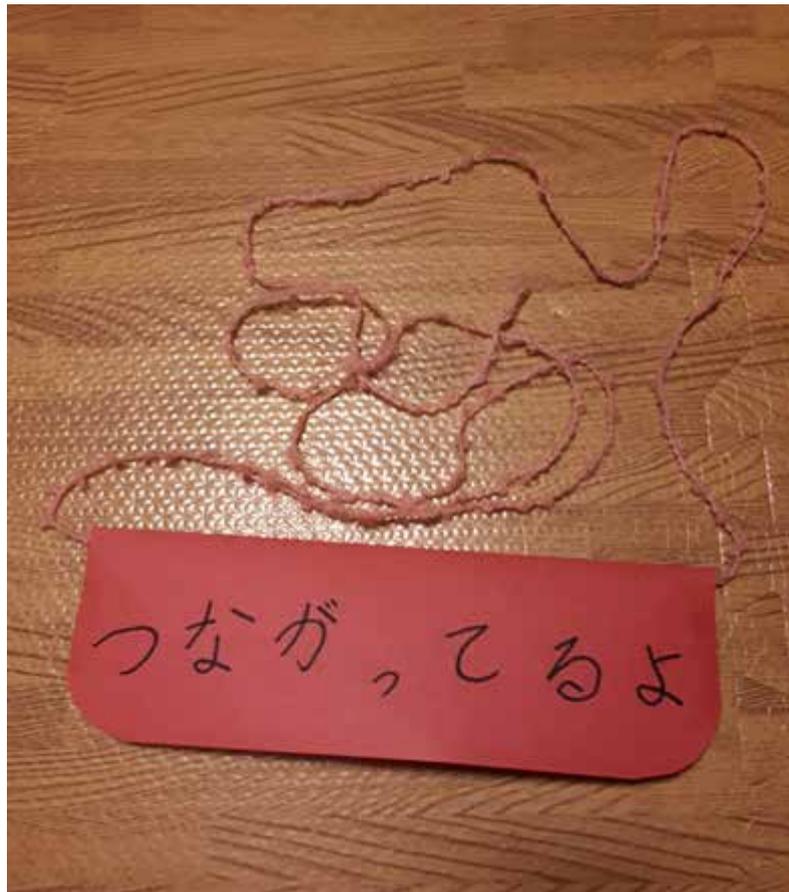
まず、地域の方々と一緒にコロナを乗り越えたいという思いから、横断幕作りを企画しました。まるごとキッズと「ひとりじゃないよ」という言葉を考え、その言葉をまるごとキッズが思い思いに布に書いて横断幕を作りました。それを事務所のベランダに掲げています。

また、近所の写真家の方と対話を重ね、子育て中の母親を対象に子供の写真の撮影方法を教えてもらうことを企画しました。講習後、実際に写真を撮り、自分を自由に表現してもらいました。その際、三密を避け、基本的な感染対策を取りました。講習は i p a d を使用しペーパーレスで行い、終了後に L I N E で参加者に共有しました。

その他、私は娘達と毛糸を二メートルに切り、物理的に社会的距離を理解する道具を作りました。その毛糸の端と端を持った時に、人と人が心でつながっているということも伝えたかったので「ひとりじゃないよ」「つながってるよ」という言葉と絵を遊びながら娘達と紙に書いて毛糸に付けました。仕事で利用者宅を訪問した際、この毛糸を使って社会的距離について説明し、セルフケア行動の獲得につなげました。

これらの活動後に参加者から多くの感想をもらいました。その中に「久しぶりに人と直接会って話ができ楽しかった。元気をもらった」という感想がありました。この感想から、地域の方々が「人とつながる」ことを求めていることがわかりました。これらの活動が参加者の希望や癒しとなり、生きる力を生み出すことになったと考えます。

最後に、私は訪問看護師として、この地域は小さい子供から若者、高齢者まで様々な人々の関わりがあり、より良い社会を地域で創っていると感じています。私達も人と人をつなぐ取り組みを続け、これからも共により良い社会を創っていきたいと考えています。



事例 57 株式会社クラ・ゼミ こどもサポート教室「きらり」武蔵新城校

竹井 雅代 様

神奈川県川崎市高津区新作

『NEWS きらりん』 いまだからこそ こどもたちへ 明るいニュースを 届けよう

1. はじめに

『NEWS きらりん』は、当事業所を利用する児童へ向けたニュース紙です。2018年10月にスタートし、世の中の出来事や情報をわかりやすく伝えようとしてきました。

本年、新型コロナウイルスへの感染が拡大していくなか、日々のニュースはコロナ関連のものが多くなり、それにつれて児童からも「コロナばかりだね」という声が聞こえてきました。次々と流れてくるコロナ関連の情報によって児童が息苦しい思いをいただいている状況にあることに気づき、2020年3月、4月は臨時発行と配信を行いました。

2. 取り組みの紹介

本年3月、首都圏で外出自粛要請が出される直前の24日『NEWS きらりん』では、タイトルを「キリンの赤ちゃんの名前は？」とし、キリンの赤ちゃんの名前をつけるための投票を動物園が呼びかけているニュースを伝えました。

続いて4月1日には「日本でいちばん短い駅の名前」と「日本でいちばん長い駅の名前」を発行しました。出かけにくい状況であっても楽しめそうな駅名の話の2本のニュースを同時に発行しました。

当事業所では『NEWS きらりん』を壁面に掲示して、来所した児童に見てもらい、さらに、神奈川県内と東京都内のこどもサポート教室「きらり」8教室にも配信しました。

3. 考察

コロナ禍にあって児童は、膨大なコロナ関連の情報にとまどう、恐れる、避ける、誤解するといった状況に陥りました。そのとき、私たちは、児童を取り巻く情報環境について考え、児童が情報といかにつき合うかについて、何か手を差し伸べなければならないと強く感じました。

コロナ関連の確かな情報、新しい情報を児童に届けることが必要であることはもちろんです。そして、それとともに「コロナばかりだね」との児童の言葉に表されるような閉塞感や疲労感を軽くしてやる必要があると考えます。

4. 終わりに

『NEWS きらりん』を見た児童から「キリンの赤ちゃんが生まれたんだね。どの名前がいいかな？」「お母さんといっしょに投票してみる！」との声があがりました。明るい話題があると、児童は前向きな気持ちになり、自ら考え自ら行動し始めます。児童が、前向きな気持ちや自主性を失わずに成長していけるよう、今後も明るいニュースをわかりやすい形で届けていきたいと考えています。

事例 58 株式会社マエカワケアサービス リハビリデイセンター悠 ハッピーマウス

森 桃子 様

神奈川県横須賀市野比

コロナ不安で通所を自粛されている利用者様に対して、電話での「安否確認」を実施しました。

安否確認の項目も必須内容だけでなく、電話で出来ることを考慮し、口腔機能の維持を目的に事前に自宅のポストに入れておいて差し上げた教材を用いて、発音練習を電話にて行いました。

また、電話をあえて事業所のサービス提供時間中に行うことで、事業所に通所されている馴染みの利用者様ともお話しして頂くようにしました。

コロナ不安でお休みされている利用者にとっても、通所されている利用者様にとってもお互いの状況を確認し合える良い時間になったようでした。

お休みされている利用者様が復帰された時も電話でお話されていたので、すぐに以前同様の交流をされ笑顔を見ることが出来ました。

今後も不安感から通所をお休みされる利用者様がいらっしゃるかもしれません。

そのような時も、スタッフや他利用者様との繋がりを大切にしたい支援を行ってまいります。

利用者情報	サービス提供内容	安否確認内容
氏名: 森 桃子 住所: 神奈川県横須賀市野比 電話番号: 046-251-XXXX	サービス提供日時: 2020年4月10日 サービス提供内容: 電話による安否確認	確認日時: 2020年4月10日 確認時間: 10:00 - 10:30 確認場所: 電話 確認内容: 発音練習を実施し、口腔機能の維持を確認した。また、事業所のサービス提供時間中に行うことで、馴染みの利用者様ともお話しして頂くようにした。



後援

神奈川県

横浜市

川崎市

相模原市

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会

社会福祉法人相模原市社会福祉協議会

公益社団法人神奈川県社会福祉士会

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会

神奈川新聞社

tvk（テレビ神奈川）

横浜エフエム放送株式会社

協賛

株式会社 日本コンピュータコンサルタント

株式会社 ツクイ

株式会社 ニチイ学館

株式会社ベネッセスタイルケア

医療法人芽依美会 石川歯科医院

理想科学工業株式会社

KDDIまとめてオフィス株式会社

一般社団法人 かながわ土地建物保全協会

株式会社セレモニア

川崎市福祉サービス協議会

株式会社 日本信用リース

株式会社 大塚商会

川澄 弘喜 様（個人サポーター）

【特別協力】

株式会社 高千穂

令和元年度 神奈川県社会福祉協議会 第2種・第3種正会員連絡会活動成果普及事業助成
新型コロナウイルス感染対策助成



介護事業者向けソフト
介舟ファミリー

人生100年
(幸福に生きる)時代へ。

ひとりでも多くの人生100年が、
自分らしく、幸福に生きられる
100年になることを願って。



株式会社ツクイホールディングス

本社 〒233-0002 神奈川県横浜市港南区上大岡西 1-6-1 <https://tsukui-hd.co.jp> 東証一部上場企業



TSUKUI

やさしさを、私たちの強さにしたい。



ニチイ

介護に関わる方のため
の総合情報サイト



介護アンテナ

すべて無料
で利用可能

＼介護の仕事に役立つ情報もたくさん！／



研修資料としても使える
基本の介護技術(動画付き)



印刷して使える脳トレ、
塗り絵などの介護レク素材



ポスター、パンフレットなど
に使えるフリーイラスト素材



外出レクの検討に！人気
スポットのバリアフリー情報

今すぐ無料で会員登録！



介護アンテナ

検索

<https://www.kaigo-antenna.jp/>

医療法人 芽依美会

石川歯科



一般社団法人かながわ土地建物保全協会

一般社団法人
かながわ土地建物
保全協会

あらゆる仕事の
生産性を高める。

NEW ORPHIS FT

高速性	経済性	生産性
プリントスピード 140 枚/分 ^{*1}	フルカラー 1.47% ^{*2} モノクロ 0.41% ^{*2}	後処理 加工まで 自動化

オフィスIT
その実力はコチラ

*1:フルフェイスFT5430の場合、A4標準紙を直送送り、標準設定薄紙プリント、標準フェイスダウン機能トレイ併用時、*2:A4標準紙吐き出し、RISO FTインクF専用時、カラーは測定標準にISO/IEC24712に定めるD50を
使用し、ISO/IEC24711にないRISO独自の測定方法によって算出。モノクロは測定標準にISO/IEC19752に定めるP45を使用し、ISO/IEC24711にないRISO独自の測定方法によって算出。掲載代別。

理想科学工業株式会社 理想横浜支店 〒231-0023 横浜市中区山下町209 帝業閣内ビル11F
TEL:045-330-9938 FAX:045-522-5151 www.riso.co.jp

KDDI

KDDI まとめてオフィス



発行・お問い合わせ

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会

かながわ福祉サービス大賞実行委員会

〒231-0023 横浜市中区山下町23 番地日土地山下町ビル9 階

TEL045-671-0294 FAX045-671-0295

HP:<http://www.kanafuku.jp/>